

咲耶会の皆様へ

信頼・堅実の会員制結婚相手紹介サービス

幸せにしたい人に出会う。

学士会館・良縁倶楽部

大切な出会い。そして堅実な結婚をあなたに……

学士会の正会員・準会員(咲耶会・国立七大学出身者を中心)^{*1}とその家族の婚活を支援する倶楽部です。

*1 国立七大学：北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学

サービス

- 団体紹介サービス
婚活イベントの開催(学士会館にて開催、参加料有料)
- 倶楽部会員プロフィールの閲覧(閲覧会員に限る)
- 個別紹介サービス(提携先によるサービス)
- お見合用写真のメイク&撮影
- 成婚後のご相談
- 学士会館メールマガジン会員にご登録

入会条件

学士会の正会員・準会員本人およびその家族とします。また、次の条件を満たす方とします。

- [独身であり、結婚する意志を持っていること]
男性：25歳～ 社会的に確かな職業に就いており真面目にご結婚をお考えの独身の方
女性：20歳～ 真面目にご結婚をお考えの独身の方
- [当倶楽部の趣旨に賛同し、当倶楽部が定める規則を厳守すること]

お問合せ/営業について

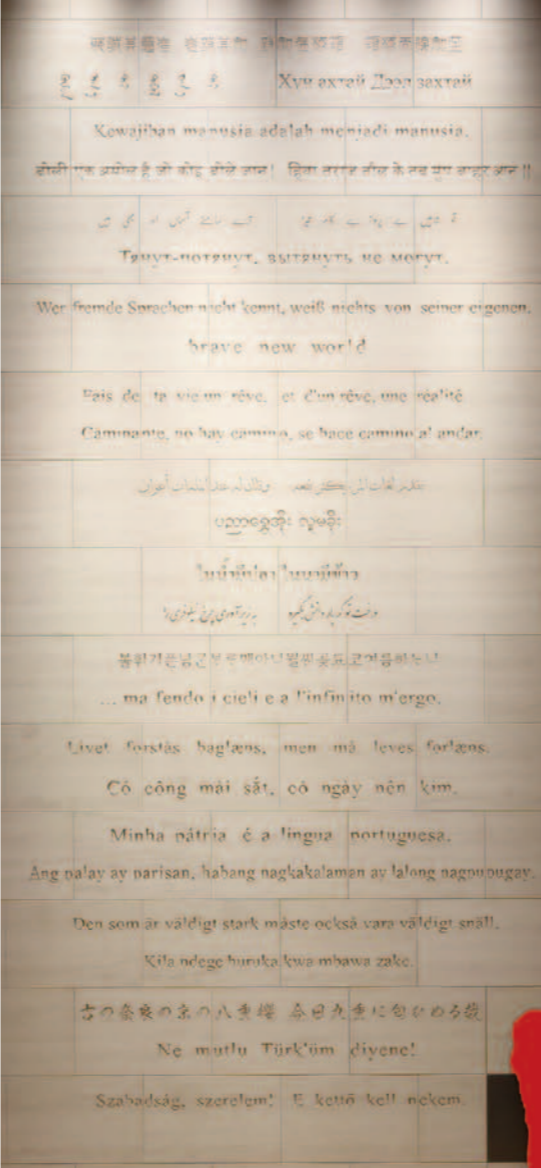
メールアドレス：ryoen@gakushikaikan.co.jp

営業時間：11:00～19:00

電話番号：03-3292-5941

定休日：水曜日・木曜日 他不定休

学士会館・良縁倶楽部 <https://www.gakushikaikan.co.jp/ryoen/>
〒101-8459 東京都千代田区神田錦町 3-28



咲耶

創立100周年・新キャンパス開学特別記念号 会報「咲耶」2021 No. 32

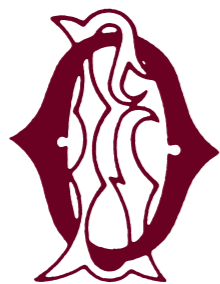


私たちは、塗料事業で培った技術と人財を 最大限に生かした製品・サービスを通じて、 人と社会の発展を支えます。

世界をフィールドに挑戦を続ける



www.kansai.co.jp



【表紙のことば】

新キャンパス玄関ホールにそびえ立つ巨大な大理石の柱。これぞ新キャンパスの象徴である。25 専攻語を象徴する様々な言葉がそれぞれの文字で刻まれている。1921 年、第一次世界大戦後の大正デモクラシーの時代に大阪上本町の地に 9 言語で開学したわが母校。創立 100 周年を迎えた今、25 専攻語を有する大阪大学外国語学部となった。石板の裏には、大阪大空襲の戦火から図書館書庫を守った鉄扉が埋め込まれており、歴史を感じさせる。

「世界時計」の名で親しまれた時計台は、図書館前広場の中央に立つ樺の大木とともに、旧箕面キャンパスのシンボルであった。1999 年の箕面移転 20 周年に、記念モニュメントとして設置されたもの。「烈士の碑」とともに新キャンパスに移設された。

それぞれの世代のシンボルをその精神とともに大切に受け継ぎ、母校がさらに大きく発展することを願う。

目次

2-3 ご挨拶 (咲耶会会長 大水 勇)(大阪大学総長 西尾章治郎) (外国語学部長 竹村景子)
3 大阪大学箕面新キャンパス竣工記念式典
4 新キャンパス紹介
5-6 [特 集] これからの百年も大阪に国際人を育てるー 創立 100 周年に寄せて
7 [特別寄稿] 大阪外国語大学名誉教授 布施俊夫
7-8 令和2年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会
9 心に残る恩師の思い出 関口英子
10 [特 集] 留学体験記 荒木和夫
11-12 私のキャリアレポート 阿古智子/田中志緒理
13 菜の花 野津修敏
14 懐かしの恩師は今 小矢野哲夫/伊藤太吾
15-17 CAMPUS NEWS
18-19 部活動の広場
20-23 咲耶会ニュース
22 令和2年度 決算報告/令和3年度 予算案
23-24 つどい
24-28 支部だより
29-32 短信
33 追悼文・物故者
34-36 年会費支払者・賛助金寄付者一覧
37 咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表
38 令和3年度 咲耶会役員名簿
個人情報取扱いについて 編集後記

ご挨拶



咲耶会会長 大水 勇

今年、西日本では早くから梅雨に入り、雨または曇りの日が続いています。新型コロナウイルス感染症(以下単にコロナという)の流行が続いている中での梅雨は、憂鬱そのものです。同窓の皆様は、いかがお暮らしてでしょうか。コロナに感染されていないことを願っております。

さて、今年は、大阪外国語大学創立 100 周年に当たります。この記念すべき年に、キャンパスは粟生間谷から箕面船場に移転しました。4 月 1 日には、箕面新キャンパスの竣工記念式典が行われました。現在は、新キャンパスで授業、研究が行われています。

咲耶会の活動については、今のコロナの流行の中で、先輩、同期、後輩が顔を見ながら親密な交流を行い、お互いの友情等を確認しあう場という同窓会ならでの活動は、ほんの少ししか出来ていません。その中で、『咲耶』誌の発行は、一番目立った活動です。今回の『咲耶』

誌には、今後百年を見つめて、どのように国際人を育てるかについて、学長、学部長を経験された先生方の論考を載せてあります。コロナ下で思うように動けませんが、コロナ後の世界を推論するには、格好の記事だと思います。コロナも過去の感染症と同じく、いつかは終息します。この記事を読んでコロナ終息後の世界に思いを馳せるのは、楽しいことです。

ところで、咲耶会のプライマリーバランスの件ですが、昨年と今年の活動が思うようにできなかったので支出が若干減少したためか、結果的に財政収支の均衡がとれています。この調子でプライマリーバランスを均衡させて、咲耶会の活動を継続しようと思っています。

幸い、咲耶会の若手幹事等が、Web 会議システムや SNS を使って、在学生との交流を図っています。新しい咲耶会の活動として注目しています。創意工夫で咲耶会の活動を続けたいと思っています。

現在、我々執行部としては、11 月 13 日(土)の咲耶会総会が開催できるものとして準備をしております。

咲耶会は、財政的に困難を抱えているのはご承知のとおりです。同窓の皆さん、年会費の支払いをお願いします。

学士会をご存じですか？

学士会は旧七帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 1 『學士會会報』が届きます。
2 講演会・イベントへ参加できます。
3 「学士会館」会員優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。 http://www.gakushikai.or.jp/

学士会案内が届く準会員(無料登録)制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町 3-28 03-3292-5933 (平日 9 時~ 17 時)



大阪外国語大学創立 100 周年記念、新キャンパス開学によせて



大阪大学総長 西尾章治郎

本年度は、大阪大学創立 90 周年、大阪外国語大学創立 100 周年という記念の年です。この節目の年度を迎えるにあたり、念願の箕面新キャンパスが無事開学しましたことは、この上ない喜びです。

この新キャンパスがある箕面船場の地は、吹田キャンパスと豊中キャンパスの中間に位置しています。今後、三つのキャンパスを結ぶ「要」として、キャンパス間の連携やコミュニケーションのさらなる活性化に大きな役割を果たすことを心から期待しております。

新キャンパスには、二つのキーコンセプトがあります。第一は、本学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を実践するグローバルとローカルの両面を備えた

グローバルな教育研究拠点となることです。「社会との共創(Co-creation)」の場として、世界各国の研究者や学生、地域住民の皆様との交流を通じて、多様な文化に対する相互理解を育みます。

第二は、最先端の情報通信技術を駆使したスマートキャンパスの実現です。産業界との共創活動を通じて、環境に配慮したサステナブルなキャンパス整備を強力に推進します。そのことにより、我が国が目指す Society 5.0 やカーボン・ニュートラルな社会、さらには国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けて、本学は最大限の貢献をしております。

この新キャンパスを核として、本学は「これからの百年も大阪に国際人を育てる」べく、地域と世界に開かれた教育研究拠点の形成により一層励んでまいります。本学から世界へ羽ばたく学生達に対して、咲耶会の皆様のあたたかいご協力、ご支援の程を引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

新キャンパス = OUグローバルキャンパスでお待ちしております



外国語学部長
竹村景子

咲耶会のみなさま、いつも外国語学部へのご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございます。みなさまからの多大なご支援をいただき、コロナ禍においても何とか建設を進めておりました新キャンパスも、本年4月1日に無事に竣工記念式典を終えることができました。コロナ禍のために「通常運転」というわけにはまいりませんが、教職員も学生も真新しい研究講義棟で日々がんばっております。

さて、その新キャンパスですが、大阪大学の中で唯一、明確な使命を帯びた名称が与えられております。「OU (Osaka University) グローバルキャンパス」と申します。OU グローバルキャンパスに期待されていることは4つあります。第1に、世界の多様な言語とそれら言語を基底とする地域の文化や社会に関する教育研究の集積拠点となり、高度なグローバル人材を育成する場となること。第2に、世界に向けて日本語・日本文化を発信する拠点となること。第3に、外国語・外国学研究等の成果を介して地域の市民と世界を結ぶ場となること、そして第4に、持続性が高くスマートで機能性に富んだキャンパスとなること。特に第3の点については、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を具現化する場として、阪大の社会学連携の「一丁目一番地」となることが期待されております。

コロナ禍で不安な船出ではありましたが、外国語学部は、新たな100年に向けて真新しいキャンパスでスタートを切りました。「烈士之碑」や「大阪外国語学校の図書室の鉄扉」、「世界時計」など、いろいろな世代の方々にとって思い出深いものもきちんと移設しつつ、「25 専攻語それぞれの大切な言葉」を刻んだ大きな石板など、新たなシンボルとなるものも設置しております。何より、若い後輩たちがコロナ禍にもめげずに「外語の魂」をもって日々外国学の研鑽に励んでおります。「地域に開かれたキャンパス」を目指しておりますので、コロナ禍が落ち着きましたら、咲耶会のみなさまにもお気軽にお越しただければと思っております。

最後になりましたが、外国語学部生たちのために、今後も咲耶会のみなさまからの温かいご支援とご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。

4月1日、大阪大学箕面新キャンパス竣工記念式典が、箕面市長はじめ、地元箕面市の関係者、文部科学省文部科学審議官、大阪大学の関係者等、約80名が列席して、「大阪外国語大学記念ホール」にて挙行されました。

大阪外国語大学関係では、赤木・是永両元学長に加え、咲耶会から、大水会長、少徳前会長（現相談役）、井上副会長の3名が出席しました。西尾章治郎総長の挨拶につづき、竹村景子外国語学部長から新キャンパスの概要について説明がありました。式典のハイライトは、エントランスの中央にそびえる石板を背景に行われたテープカット。石板には、専攻25言語の各言語を象徴する言葉が刻まれています。



箕面新キャンパスが開学、 外国語学部の新しい歴史の幕開けです

新キャンパス紹介



1階 エントランスホール正面にそびえる石板

3階 食堂

3階 食堂（東側小上がリスペース）

5階 学生交流スペース

1階 大阪外国語大学記念ホール
同窓生の皆様の寄付により設置されたホールです。「新たな知を共創する場」として、国際シンポジウムから市民フォーラムまで幅広く活用します。

光と平和の広場
5Fと6Fの学生交流スペースをつなぐ階段。学生が自由に語らう場として、またプレゼンテーションスペースとしても活用します。

6階 学生交流ラウンジ

5階 同時通訳実習室

5階 留学生交流情報室

特集

「言語（人間）と地球を究める」―未来設計図―

これからの100年を見据えた「外国語学部未来設計図」には、これまでの百年を踏まえた上での基本理念が必要であろう。それは、「言語（人間）と地球を究める」ではなかろうか。言語は人間そのものであり、地球上の多様な言語を習得し、人間が抱える多様な課題に挑戦する基礎を養う場が21世紀の外国語学部であろう。さらには、日本で唯一の「総合大学の中の外国語学部」という特徴を生かした新しく个性的な外国語学部でなければならない。それを実現するために、今すぐ集中的に皆さんで議論を始めてほしい。たとえば、具体的な論点としては、次のようなことが浮かんでくる。最も急がれるのは、習得可能な言語数の拡大と既存の言語教育の質的向上であろう。少なくとも、アフリカや中央アジア地域の言語学習コースを整備したいものである。他方、他大学でも学習が可能な英語

モノリスの磁場

新学舎の一階ロビー正面に、異世界からのモノリスとも思える石板がそそり立っている。その石板は、みずから磁場を生成し、この学舎に学ぶ者の意識、身体、想像力を刺激する電磁波を学舎の隅々にまで放出させているかのようである。モノリスには、人類の言語中枢を司る神が宿り、人間の精神は言語において躍動し、言語は人間存在の根幹をなす、と告げている。百年のちも、その磁場の中での学生のすさまじい勉学の様子は、『福翁自伝』に福沢諭吉が記す適塾（大阪大学発祥の地）での塾生の鍛えられ方を髣髴とさせるだろう。中国語学習は、『普通話正音字表』を手に、約400の音節を発声する徹底的な調音体系の訓練、習得を通して、中国語の身体性に限りなく近づくことから始まる。中国語のあらゆる事象の解析には伊地智善継先生の編まれた『白水社中国語

EX ORIENTE LUX ET PAX!

私事になりますが、私が大阪外大に入学したのが1967年、すでに外大創立から半世紀経過しておりました。その半世紀の間にどのようなことが外大や過去の卒業生に起こっていたのか、間接的ながらも私がある程度知ることになるのはずっと後になってからのことでした。入学当初の18歳の私は「よーし!これから英語をこれまで以上にもっともっと頑張って勉強するぞ〜!」といった単純な勉学意欲に支えられていたと思います。そして結局その後大学院、学部助手・講師・助教授・教授を経て2014年3月の定年退職に至るまでの47年間の長きに渡って、大阪外大、および統合後の大阪大学でお世話になることになりました。その間、教育者・研究者として自分なりに充実していたと思える時期も相当期間あったと思いますが、定年退職するまでの約10数年は大阪外大副学長、大阪大学外国語学部長、総長補佐などの役職がついてまわり、外大・阪大



第9代大阪外国語大学学長大阪外国語大学名誉教授

赤木 攻

（大 TV15）

という特徴を生かした新しく个性的な外国語学部でなければならない。

それを実現するために、今すぐ集中的に皆さんで議論を始めてほしい。

たとえば、具体的な論点としては、次のようなことが浮かんでくる。

最も急がれるのは、習得可能な言語数の拡大と既存の言語教育の質的向上であろう。少なくとも、アフリカや中央アジア地域の言語学習コースを整備したいものである。他方、他大学でも学習が可能な英語

モノリスの磁場

新学舎の一階ロビー正面に、異世界からのモノリスとも思える石板がそそり立っている。その石板は、みずから磁場を生成し、この学舎に学ぶ者の意識、身体、想像力を刺激する電磁波を学舎の隅々にまで放出させているかのようである。モノリスには、人類の言語中枢を司る神が宿り、人間の精神は言語において躍動し、言語は人間存在の根幹をなす、と告げている。百年のちも、その磁場の中での学生のすさまじい勉学の様子は、『福翁自伝』に福沢諭吉が記す適塾（大阪大学発祥の地）での塾生の鍛えられ方を髣髴とさせるだろう。中国語学習は、『普通話正音字表』を手に、約400の音節を発声する徹底的な調音体系の訓練、習得を通して、中国語の身体性に限りなく近づくことから始まる。中国語のあらゆる事象の解析には伊地智善継先生の編まれた『白水社中国語

EX ORIENTE LUX ET PAX!



第1代大阪大学外国語学部長大阪大学名誉教授

杉本孝司

（大 E19/院 E3）

これからの百年も大阪に国際人を育てる―

や中国語などの言語教育は質の高度化・差異化を図り、日本で最も能力の高い学生を育成しなければならない。

並行して、地球上のあちこちで人間が抱えている課題を見つける素養が要求される。学生が学内の他学部の授業にも参加し、広い視野から地球を眺め。さらには地域を注視し、知見を広める機会の提供が必要である。課題解決型思考力を養い、最も適切な大学院へ進学し専門学修に励む準備をしてもらいたい。

さらに、設計図に組み込んで欲しいのは民間力の活用である。関西には、古くから民間が「教育・研究」を促す独特の土壌がある。幸い、今度の新キャンパスは街中にある。だれもが出入りする活性化した場にしたいためである。

そして、「平和の旗」、「愛の言葉」、「文化の光」の精神が教育および研究のすべての営みに満ちる設計図でなければなるまい。

辞典』が応えてくれる。余談ながら、塾生たちが唯一勉学の頼りとしたオランダ語日本語対訳辞書（編纂者の名をとってゾーフ辞書と呼ばれていた分厚い書物）には、緒方洪庵が1862年幕府奥医師に召されて江戸に出る際の騒動の最中に失われるというミステリーが絡む。日本の高等教育史上、最大、最強の統合であった大阪外大と阪大との統合の意味は、「変革と再生、自ら差異化して次元を変える」ということであった。大阪外大は、世界諸言語の殿堂というコアを維持・発展させつつ、旧帝大の包括的な知の体系のなかで新たな次元へ挑戦する、という変革と再生の道を選択したのである。官立の大阪外国語学校として生まれ、新制国立大学の歩みを重ねてきた大阪外大のDNAの核となるのは、言語中枢の覚醒と他者への想像力であろう。それをもたらすのは人間存在の根幹であることば（logos）であり、そのことばに命が宿り、人間の精神を鍛え、育む。百年のちも、モノリスの磁場は躍動する精神を具えた国際人を輩出し続けているであろう。

の統合問題とも相俟って、打ち合わせや会議の連続の日々を過ごしたことが強く印象に残っています。それまで自分が思い描いていたような教育者・研究者としての日常は結局定年により退職の日を迎えるまで取り戻せなかった感が否めません。もちろん私は私なりに授業や生徒指導、会議に全力を注いでいたつもりでしたが、同僚や学生たちにどのように受け止められていたのか、甚だ心もとない気持ちにならない訳でもありません。ましてやこんな私が外国語学部のこれからの百年を脳内に投影しておがましくも何かを語ることとはあまりにも僭越至極なこと、この部分は偏に現在、および今後の外国語学部の構成員（教職員および学生）の皆様や阪大の他の学部・研究科の構成員や阪大執行部の皆様との間で、今後も捻り多い議論が展開されていくものと固く信じております。そして今後も、どのような困難に直面しようとも、学部章に刻まれた言葉が常に我々構成員全員を勇気付けてくれること、固く信じております --- EX ORIENTE LUX ET PAX!

創立 100 周年に寄せて

AI時代のこれからも大阪で国際人を育てる―母語による相互理解のために

大阪大学と統合してはや14年、上八学舎でアラビア語を学んだ身としては、母校の思い出は外大時代に関わってくる。1971年3月卒業ではあるが、まだアラビア語の文献の入手は難しく、教材は謄写版プリント（もう古語か）中心、まともな辞書は高価で図書館にしかない。従って、勉強とは習ったプリントを覚える意味だった。それ以上は、判然としないモヤモヤに苦しむのみ。そんな環境だからか、アラビア語の「ア」とイスラームの「イ」があれば、どんな活字でも読んだ。それが、大学に奉職して10年もすれば、母校の発展とは、東京外国語大学にいかになつしていくかということと同義と分かってきた。地の利には敵わず、残念な思いは払拭しきれない。ある時、かの地で開かれた研究会での発表後、日帰りのため早めに懇親会を辞すと、お1人が出て来られ、「万一の場合、両校が一緒になるという考え

「今後とも変わらぬ使命＝グローバル人材の育成」

「大阪に国際人を育てる学校を」という趣旨のもとに設立された大阪外国語学校以来、高度な言語能力と異文化理解能力、さらに主体性（自ら考え行動する力）・協調性（譲り合う心）・使命感（こころざし）を併せ持った人材（＝グローバル人材）を育成するというミッションは、大阪外事専門学校、大阪外国語大学の時代を通して一貫しており、その理念は、「外国の言語、およびそれを基底とする文化一般について理論、および実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識、および高い教養を与え、言語を通じて外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを目的とする」という現在の外国語学部規程に結実しています。

学部長時代、外国語学部生の約3分の2が、在学中に海外留学等を経験するというその「外向き志向」を誇らしく思っていました。海外生活への旺盛な意欲は、何よりも外国語学部生の異文化に対する

「これからの百年も大阪に国際人を育てる」

昨今のAIを駆使した翻訳エンジンの精度の向上により、携帯翻訳機や翻訳サイトを活用して、日本語の外国語への翻訳や外国語の日本語への翻訳が便利になりました。とくに携帯翻訳機は、今まで外国人とコミュニケーションする機会のあまりなかった人々にとって心強い道具として大いに普及しているようです。100年もすれば、外国人とのコミュニケーションは、AI機器があれば困らないといった状況が来るのでしょうか。そうならば、外国語学部の教育がどれほどの意味を持つことになるでしょうか。

外国語学部の「学び」は、コミュニケーションのための単なるツールとしての言語を学ぶ（AIと競合する）だけではなく、言語とそれが



第2代大阪大学外国語学部長大阪大学名誉教授

高階美行

（大 A19）

強い「好奇心」「探究心」を反映していると感じていたからです。私は、有為な「グローバル人材」にとって最も大切な点は、いかに異文化に対する「好奇心」「探究心」を持ち続けるかだと思っています。異文化理解には、「知識」は必要ですが、頭ではなく、異文化を肌で

「今後とも変わらぬ使命＝グローバル人材の育成」



第3代大阪大学外国語学部長大阪大学名誉教授

東 明彦

（大 S26/院 S11）

ただ、そのような草の根的交流には、現地の言語の能力が不可欠です。その場にいっしょにいてだけで、ただそれだけで、異文化に属する人々との相互理解が可能だというような幻想を抱くのではなく、言語による真摯な交流を通してはじめて、一定の相互理解が可能であるということをお忘れてはならないと思います。

「これからの百年も大阪に国際人を育てる」



第4代大阪大学外国語学部長言語文化研究科教授

大内 一

（大 S28/院 S13）

はどうか」と尋ねられた。唾然とした一瞬、「もちろん、対等ですよ。なら、そちらも名古屋辺りまで移って来る用意がありますか」。ついに最終に乗り遅れ、寝付けない耳に、その会話が何度も鳴り響いた。

大阪外大が大阪に立地している諸原理を感得したのは、この時だった。「大阪に」こそ、諸制約からの解放と巨大な可能性とが内在している。

外大時代から多言語同時処理などと唱えていた者には、118言語対応の携帯通訳機がTVショッピングで1万円の今は夢のようである。とはいえ、いかにビッグデータをAIが処理した翻訳であろうと、世界言語研究センター時代の地政学的研究プロジェクトで確認したモットー「人は母語による対話を通じてこそ相互理解が可能となる」とのレベルには、遠く及ばない。逆に、AIが性能を競うからこそ、異なる母語話者の中で活躍できる人材を育成するとの外国語学部のミッションは輝きを失わない。ネットで世界と常時接続の時代でも、地球規模で他の母語話者との対話を夢見て研鑽する学生諸君は、勇敢である。

「今後とも変わらぬ使命＝グローバル人材の育成」

強い「好奇心」「探究心」を反映していると感じていたからです。

私は、有為な「グローバル人材」にとって最も大切な点は、いかに異文化に対する「好奇心」「探究心」を持ち続けるかだと思っています。異文化理解には、「知識」は必要ですが、頭ではなく、異文化を肌で感じない限り、本当の知識は身につきません。異文化に対する「好奇心」「探究心」を原動力として、多様な国や地域の人々と草の根的交流を続けることのできる人材こそが貴重です。

ただ、そのような草の根的交流には、現地の言語の能力が不可欠です。その場にいっしょにいてだけで、ただそれだけで、異文化に属する人々との相互理解が可能だというような幻想を抱くのではなく、言語による真摯な交流を通してはじめて、一定の相互理解が可能であるということをお忘れてはならないと思います。

その意味で、優れた言語能力と確かな異文化理解能力を併せ持つ人材の育成こそが、今後とも外国語学部の進むべき道だと考えています。

「今後とも変わらぬ使命＝グローバル人材の育成」

話される地域の文化や社会を多角的な視野から総合的に理解することを目的とした「語圏研究」をとおして、高い言語運用能力と言語地域に関する深い知識を備えたジェネラリスト、さらには世界の諸地域の文化や価値観等を相対化する異文化理解力を身につけた国際人を育成することなので、希望的観測ですが、AIに簡単に負けることはないと思われます。

「国際人」の育成は、林蝶子氏以来の外国語学部の教育の目標であると同時に国家的ニーズでもある点で、普遍性があると思います。しかし、この「国際人」の育成がいつまでも外国語学部の「専売特許」であるとは限りません。大阪大学全体として国際人を育成することを前提に、その中で外国語学部がどのようにそれにコミットするかをあらためて考える必要があると思います。

特集

06

「大阪外大 70 年史」への反省

布施俊夫

大阪外国語大学名誉教授(ドイツ語)

私がもう 10 年以上住んでいる宝塚の老人ホームへ、近年私よりひとまわり若い大阪外大 E18(1970 年)卒の人が入って来られた。



超一流の貿易商社に勤務し、英・米・伯の主要都市で活躍された国際人である。名士が少なくない当ホームでも際立って洗練された、極めて礼儀正しい紳士で、その存在は同窓生として誠に誇らしい。

その人物が先日何気なく語った言葉に私は大きなショックを受けた。同氏は学生時代にギター部にいたのだが、その時の友人が『大阪外国語大学 70 年史』を読んだが、我々のクラブのことは一言も触れられていない」と言っていたというのである。「ああ、やっぱり大きな書き落しがあったか」と私は心が痛んだ。

既に『大阪外国語大学 70 年史』の巻末にこの年史成立のいきさつについては書いた。年史出版の話は 35 年目は時期尚早、50 年目は大学紛争未結終の理由で流れ、70 年目になってやっと同窓会からの強い要請で実現に至った。一つの学校の歴史を 70 年目になって初めて振り返り、できる限り詳しく、正確に記述するというのは至難の作業である。私は編集委員長に指名されて困惑したが、この時点で誰かが学校の歴史を記録に残しておかなければ、やがて過去のことが全く分からなくなってしまつて外語・外大の年史など作れなくなると思つたので、お引き受けした。

古い時代については、当時活躍なさった方々はもういらっしやらないので、当然資料に頼らざるを得ない。ところが重要な書類が大学紛争と眞面移転のために多くは紛失し、残つたものも散乱していて、役立ちそうな書類を見つけ出すのに相当の時間と労力を要した。

こうして漸く見つかった資料を精一杯活用し、『扉』、『きんきら 50 年』、『大阪外国語大学 70 年史・資料集』に多くを学び、また専門学校最後の校長・新制大学初代学長の平澤俊雄先生、外大の紛争解決と眞面移転に多大な貢献をなさった牧祥三・伊地智善繼両学長からの多くの貴重な証言を得て、外語・外大全学の 70 年の歴史記述はでき上った。

次に重要なのが外国語大学特有の各語学科の学科史である。これも先生方のご理解・ご協力を得て、全学科の学科史が出揃った。

しかし、年史にとって最重要な 2 つの章の完成に 3 年余りの年月を費やしてしまったので、私達の目標である 1992 年 11 月 11 日出版への残り時間があと 1 年足らずになって来た。勿論それまでも年史に欠くことのできないその他の重要事項については同時並行的に調査し、記述をしてきてはいたのだが、最後の段階で私達は、できる限り書き落しをしないように集中的に、これらの事項について作業したつもりであった。念願の学校創立 70 周年記念日出版の目標は達成できたが、今回ご指摘を受けた様な手落ちがあった事は誠に申し訳ない。クラブ活動については、運動部については兎も角、文化系のクラブにまでは確かに目が届かなかった。私達の努力不足を深く反省し、心からお詫び申し上げる。

令和 2 年度大阪大学司馬遼太郎 記念学術講演会

主催：大阪大学
協力：産経新聞社
後援：司馬遼太郎記念財団
協賛：咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

テーマ：「日本の歩んだ道」

プログラム

主催者挨拶



大阪大学総長 西尾章治郎

ビブリオバトル

大阪大学の学生による、司馬作品の紹介と質疑応答。視聴者の皆さまに投票いただき、チャンプ本 1 冊、準チャンプ本 1 冊を決定。

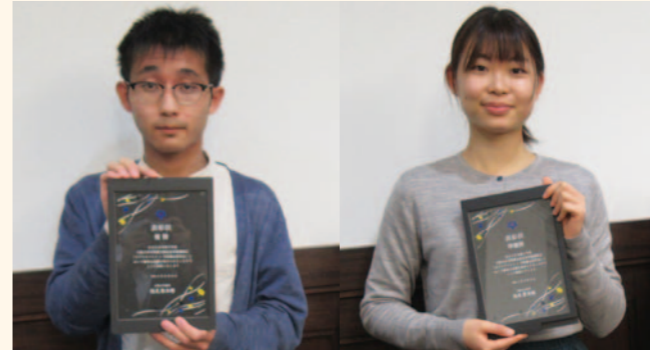
講演

「朝井まかて、司馬遼太郎を語る」小説家 朝井まかて
声の出演(作品の朗読)：小川真由(アナウンサー)



令和 2 年 11 月 14 日、第 23 回司馬遼太郎記念学術講演会が実施された(主催：大阪大学、協力：産経新聞社、後援：司馬遼太郎記念財団、協賛：咲耶会)。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン上での開催となり、司馬作品における「日本の歩んだ道」をテーマに、阪大生によるビブリオバトルと、小説家の朝井まかて氏による講演が行われた。

ビブリオバトルでは、まず経済学部 2 年の垣内亮太さんが『燃えよ剣』を取り上げ、作品の多様な読み方を提唱した。言語文化研究科博士後期課程 1 年の寺井悠人さんは『坂の上の雲』を取り上げ、歴史小説でもありながら明治日本社会の全体像を分析した作品の特徴を述べた。外国語学部 3 年の児玉七海さんは『最後の将軍』を取り上げ、維新を幕府側から描く作品の魅力を語った。文学研究科博士前期課程 1 年の平尾漱太さんは『風神の門』を取り上げ、忍びの者たちが生き生きと描かれている作品の面白さを流暢に熱弁した。



チャンプ本紹介者 平尾漱太さん 準チャンプ本紹介者 児玉七海さん

理学研究科博士前期課程 1 年の藤谷恭明さんもまた『坂の上の雲』を取り上げ、滑稽なほどに貧しい明治日本のある種の明るさを描く作品の魅力を力説した。オンライン視聴者による 5 分間の投票により、準チャンプ本には児玉さんの『最後の将軍』が、チャンプ本には平尾さんの『風神の門』が選ばれた。

続いて講演「朝井まかて、司馬遼太郎を語る」が行われた。朝井氏は 1959 年大阪市に生まれ、甲南女子大学文学部を卒業、2008 年に小説家デビュー、2014 年に歌人中島歌子の生涯を描いた『恋歌』で直木賞受賞、このほか『阿蘭陀西鶴』で織田作之助賞を、『悪玉伝』で司馬遼太郎賞等数々の文学賞に輝き、最新刊に女優伊澤蘭奢の知られざる人生を描いた『輪舞曲(ロンド)』、森鷗外の末子の物語『類』等がある。開始に当たって司馬『竜馬がゆく』第 1 巻『門出の花』の一節が朗読された。竜馬の姉で豪快な性格の乙女を描いた場面である。朝井氏はこれが初めて読んだ時代小説だといい、この場面に惹きつけられたという。弟を守る包容力のある姉型の人物とは『俄 浪華遊侠伝』の主人公である明石家万吉を見守った芸子の小左門にも共通する司馬特有の女性像で、湿っぽい恋愛とは無縁の、一種のカウンセラーのような役割を果たしている。

朝井氏は司馬作品を男性中心の「志の文学」と位置づけつつも、登場する女性たちは総じて情愛深く湿っぽくないという。小説『菜の花の沖』における主人公嘉兵衛と妻おふさとの契の場面については、水や氷や遠さといったイメージを駆使した静かな描写が主人公の後の運命を暗示し、そこには激しくはないが詩情に満ちた恋の姿が描かれているという。いっぽう朝井氏の小説はほとんどが女性を描いていて、たとえば『恋歌』は幕末の町人の娘が水戸藩士への一途な恋を成就させる話であるが、こういう積極性や自由奔放さは江戸庶民の女性に特有のもので、また男も女も家に囚われず生涯自身の気ままな者も大勢いたのであり、家を中心とする男性中心型の息苦しい社会が形成されたのはむしろ明治の近代化以降のことだという。

朝井氏は小説『ひとびとの聲音』について、明治大正期を生きた女性のいい部分を凝縮して、作者自身が取材者兼記録者としての存在感を顕わにする、いわば実録的な要素も



ビブリオバトルの出場者たち

併せ持った、ある意味でもっとも司馬らしい作品だと指摘した。最後に朝井氏は、書き手として常に司馬作品から励まされてきたと述べ、そのうえで「事実とは物語ることで初めて歴史になる」という司馬の言葉で講演を締めくくった。

(文責：松本健二) (写真提供：大阪大学共創推進部社会連携課)

令和 3 年度司馬遼太郎記念学術講演会・ 箕面新キャンパス開学記念国際シンポジウム —11 月 14 日(日)、オンラインで開催します— 対象：学生及び市民 視聴人数は制限なし

大阪外国語大学創立 100 周年の今年、大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会は、箕面新キャンパス開学記念国際シンポジウムとの併催で実施。隣接する「箕面市立文化芸術劇場」にて、対面での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「大阪外国語大学記念ホール」にて、オンライン(You Tube Live)での開催となりました。詳細は、大阪大学または咲耶会のホームページをご覧ください。

【第一部】令和 3 年度司馬遼太郎記念学術講演会
テーマ：「世界と日本を結ぶ道」
内 容：<ビブリオバトル>学生による司馬作品の紹介及び質疑応答
<講演> 講師：多和田葉子氏(小説家)
演 題：「コトバとコトバの間の罫、挟間、そして跳躍」
【第二部】箕面新キャンパス開学記念国際シンポジウム
テーマ：「これからの世界と日本を結ぶ道」
内 容：<箕面新キャンパス紹介>
<講演> 講師：リービ英雄氏(小説家・日本文学者)
サヘル・ローズ氏(タレント・女優)
<パネルディスカッション> パネラー：リービ英雄氏、サヘル・ローズ氏他
司会：竹村景子学部長

大阪大学ホームページ：https://www.osaka-u.ac.jp/ja
咲耶会ホームページ：https://sakuyakai.net/



80th Anniversary
UEDA GAKUEN

学校法人 上田学園は、80年の歴史を持ち、ファッションやデザイン分野の第一線で活躍するクリエイターを輩出し続けています。

UEDA GAKUEN

学校法人 上田学園

http://uedagakuen.ac.jp/

学校法人 上田学園
上田女子服飾専門学校
UEDA COLLEGE OF FASHION
http://www.ucf.jp/

ファッション、ファッショングッズ、靴、バッグ等の企画から生産、商品の販売までのプロフェッショナルな人材を育成

http://uedagakuen.ac.jp/

学校法人 上田学園
大阪総合デザイン専門学校
OSAKA SOGO COLLEGE OF DESIGN
http://www.oscd.jp/

コミュニケーションデザイン、インテリアデザイン、漫画、アニメーション、コミックアート、デジタルクリエイティブ、アートクリエイティブのプロを養成する

(学)上田学園 理事長
上田哲也 大 R24

心が温かくなる場所

関口英子
(大 IT38 翻訳家)

念願の大阪外国語大学に入学し、イタリア語を専攻することになったのはいいけれど、当時の私は、生のイタリア語を聞いたこともイタリア人と話したこともなかった。箕面のキャンパスのこぢんまりとした教室で出会ったアントニエッタ・パストーレ先生が、初めて言葉を交わしたイタリア人であり、先生の話される言葉が私にとってのイタリア語だった。ずっと伸びた背筋に眼鏡の奥から注がれる静かな眼差し。私は最初、その目に胸の内まで見透かされているような気がして、どこから声を出せばいいのかかわからないほど緊張した。

それがいつしか、先生のお宅にまでお邪魔させていただくようになっていった。「相手とのあいだに境界が存在しないから」との理由で畳をこよなく愛されていた先生は、手入れの行き届いた平屋の日本家屋に、イタリアからやってきたルーナという賢い犬と一緒に住まわっていた。そこでは学年の区別なく先生を慕う学生たちが集い、鍋をつつき日本酒を酌み交わしながら、じつに豊かな時間が流れていた。イタリア留学から帰った先輩たちの話を聞きながら、私は隅っこに座り、皆と一緒に空気を吸っているだけで誇らしい気持ちになったものだ。

当時、学生有志の編んだ文集に、先生はこんな言葉を寄せられている。「大学の4年間で、皆さんと私の祖国とのあいだに、愛情にあふれた関係が築かれることを願ってやみません。皆さんにとってイタリアが、素敵な思い出や幸せなひと時、大切な誰かといった、なんらかの縁で結ばれた場所であってほしいのです。[中略] イタリアと

という言葉を目にしたときにふっと心が温かくなり、感情が動かずにはいられない、そんな場所ですように」。

この言葉に、先生のお人柄と教育者としての姿勢、そしてなにより私たち学生を包んでくださった深い愛情が感じられる。

1993年、惜しまれながらもイタリアへ帰国されたのは、日本の近現代文学の重要な作家を次々に訳され、イタリアの読者と日本のあいだの縁を結ばれている。

期せずしておなじ翻訳の道を志すようになっていた私の手元に、5年前、1冊の本が届いた。Mia amata Yuriko (愛しいゆり子へ) というタイトルの、先生が書かれた小説だ。戦争に翻弄された一人の日本人女性が生きた証を、その甥の妻にあたるイタリア人女性(著者)が掘り起こしていく。小説という形をとってはいるものの、そこには学生だった私にはうかがい知ることのできなかつた、文化も習慣もまったく異なる外国で一人の女性として生きる先生ご自身の苦悩や逡巡が綴られていた。それを読んだとき、この作品を日本の読者に届けることは、先生にイタリア語を手ほどきしていただき、こうして曲がりなりにも翻訳を生業としている私に課せられた宿題のようなものではないかと感じた。幸い、横山(旧姓木村)千里さんという同じイタリア語科の先輩の頼もしい協力を得て、2019年の秋に、『最後の手紙』(亜紀書房)として上梓することができた。

本来ならば、2020年の春に、邦訳を記念していくつかのイベントが東京と大阪で開催される予定になっていたのだが、準備が整いはじめた矢先、Covid-19の猛威が世界を襲い、あれよあれよという間に飛行機が飛ばなくなり、すべて延期となってしまった。先生が来日されたら、イタリア語科の懐かしい人たちを集めて、先生を囲む会を開こうと密かに計画していただけに無念でならないが、楽しみが先に延びただけだと考えることにしたい。

イタリア語はもとより、アントニエッタ先生から、自立した一人の女性として、妥協することなく生きる姿勢を示していただいたことは、私にとってなにもにも代えがたい幸福なめぐりあわせだった。年を重ねられたいまでも日本文学の優れた翻訳者として驚くほど精力的にお仕事を続けられている先生の背中を追いながら、開いていくばかりの距離を少しでも縮められるよう、日々努力できたらと思っている。いつかまたお会いできるときに恥ずかしくないように。



『最後の手紙』とその原書



アントニエッタ・パストーレ先生: 近影

古希からの英国留学

荒木和夫
(大 DM18)

はじめに

2018年9月下旬から1年間、オックスフォード大学大学院医療人類学修士課程に留学しました。同年3月に満70歳になりましたので、古希での留学ということになります。「苦労はしても、笑い話に時が変える」とよく言われますが、今だからこそ書ける、留学にまつわる悪戦苦闘の一端をご紹介しますと思います。

留学の経緯と準備

オックスフォードで医療人類学をやろうと思った直接のきっかけは、その直前に京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻専門職学位課程で疫学を専攻していたことです。疫学というのは人間集団の疾病や健康に関する事象を研究する学問ですが、その対象は社会・文化人類学の1分野である医療人類学に類似しており、疫学の質的研究の手法は医療人類学のそれと共通点があります。

とは言っても、まずIELTSという世界的に最も受験者が多い英語の試験において、4科目全てでBand 7以上(最高はBand 9)、総合でBand 7.5以上の成績を取らなければなりません。英語が得意でもない私は、オックスフォードにオンライン出願する前月(2017年11月)、ようやく基準を満たすことができました。

オックスフォードから合格通知が届いたのは2018年3月で、妻が泣いて喜んでくれました。

オックスフォードでの体験



英国の大学は、フランスやドイツと同様、10月入学です。3学期制で、1学期は通常10週間ですが、オックスフォードとケンブリッジでは8週間です。

私の専攻は必修・選択必修が合計4科目でしたが、

毎週、Essay (2,500語)を書いてTutorial (少人数指導)を受けるか、Debate/Class (グループ討論・発表)に参加しなければならず、学期中は、それらの準備で休む暇がありませんでした。休暇期間中は、同じ専攻の院生(私以外は全て英語のnative speaker)で分担して、直前学期の参考文献の要旨を作成しましたが、1人当たりの担当文献が数十冊ありました。

そのうえ、第3学期にあった試験がまた難儀で、6月中旬の月曜日から木曜日まで4日連続、9時半から12時半まで、背広にガウンと帽子という正装で受験しなければなりません。答えは、1科目2,000語書くことを目標にしていたのですが、とうてい無理で、実際に書いたのは1,400~1,700語でした。語数自体は問題ではないとしても、量が少ないとやはり見劣りし、実際、後日、教授から答えが短かったねと言われました。

試験終了後、修士論文を書き始めました。語数制限10,000語ぎりぎりの論文を提出したのが8月下旬。そして9月下旬、試験・論文ともに何とか合格し、無事修了が決まりました。まさに苦闘の1年以外の何物でもありませんでした。



おわりに

2019年11月9日、Master of Science 取得者に許される青いフードを付けた新しいガウンを纏い、学位授与式に参列しました。感無量でした。

高校生の頃からの夢であったオックスブリッジに留学できたのは、

50年にわたって私を支え続けてくれた妻(2020年8月往生)のお陰です。本当に、亡き妻には感謝の言葉しかありません。

途上国で働くことを目指すなかで 大学教員に

東京大学総合文化研究科 教授 阿古智子 (大C42)

私は大阪外国語大学の中国語学科を卒業後、名古屋大学の国際開発研究科に進学し、開発学を学んだ。大学院への進学を決めたのは、学部時代に日米学生会議に参加し、世界で生じている問題を日米の学生たちと議論した経験が影響していたと思う。修士論文を書くために、中国湖南省の農村に1ヶ月あまり住み込み、教育と経済発展に関するフィールド調査を行った。この間、国連開発計画の北京事務所でインターンシップをさせてもらうなかで、広西チワン族自治区の教育プロジェクトにも参加した。



2019年1月に東大での講演会後に周庭さん(右)と

将来は国際機関で働きたいと考えていたため、博士課程では海外に留学する計画を立てていた。アメリカか中国、どちらかを選択しようと考え、ロータリー財団の奨学金に申し込んだが、最終的に中国への留学を提示した。ただ、当時ロータリー財団は上海に事務所を設置したばかりで、留学生の受け入れを開始していなかった。そのため、中国語圏で他の留学先を探そういわれ、シンガポール、台湾、香港のなかから最終的に香港を選んだ。中国でのフィールドワークを続けたことから、中国から地理的にも近く、行き来がしやすいというのが香港を選んだ理由だが、英語で中国について学ぶことができたのは、私のその後のキャリア形成において大きなメリットになった。

香港大学の教育学部に進学し、最終的に決めた博士論文では、中国における「公」と「私」という領域を、国家権力と教育の関係で明らかにしようとした。

国際機関で途上国の開発に関わる実践的なプロジェクトに携わりたいと考えての大学院進学だったが、エスノグラフィーという参与観察による研究手法を学び、学術研究に関心が向くようになった。書籍や資料に埋もれているだけではなく、現場に出向き、自らも参加者として活動に関わるなかで、観察を行い、記録を蓄積し、それをデータとして分析を行う。私が現在に至るまで、中国社会の奥深くに入り込んで研究を続けているのは、香港で学んだことが基礎になっている。

香港は1997年に主権がイギリスから中国に返還された。私はその1年前に香港で学び始めており、返還前後に香港の人々が動揺しながらも、未来を見据えて自らの進む方向を定めていく様子を見ることができた。当時を振り返ると今の香港の状況が信じられない。中国でも経済発展に伴い政治改革が進むだろうと見ていたが、今考えればその判断は甘かった。

交流を重ねているエミリー・ラウ(元民主党党首)がジャーナリストだった1984年、中英共同宣言署名後の記者会見でサッチャー英首相(当時)に「香港の500万人以上を共産主義独裁体制の手に渡すことを約束した共同宣言に署名したことは、道徳的に許されるのか」と問いただしたが、国家安全維持法施行による香港の変容を前に、彼女の懸念が現実のものになったと感じる。

しかし、中国にも自由や法の支配、民主主義など、価値観を共有できる人たちがいる。学術研究、教育、文化活動などを通して、これからも人とつながっていききたい。

プロフィール



1994年に中国語学科を卒業し、名古屋大学国際開発研究科に進学。1996年から2000年まで香港大学に留学。その間、1年は上海で一般家庭にホームステイしながら、調査活動を行った。2000年12月から2003年まで在中国日本大使館にて専門調査員として、中国の農村各地でフィールドワークや草の根無償資金協力を担当する。帰国後、姫路獨協大学、学習院女子大学、早稲田大学で教鞭を取り、2013年から現職。著書に『貧者を喰らう国—中国格差社会からの警告』『香港 あなたはどこへ向かうのか』ほか。

母校の引っ越しでテレビ番組を作った理由

ドキュメンタリー番組プロデューサー 田中志緒理 (言語大56)

NHKで放送された『“小さな世界”の大引っ越し 大阪大学外国語学部』。それは、ドキュメンタリー制作10年目の私が、ある夏の夜目が覚めてふと思いつき、飛び起きて作った1枚の企画書から始まった。英語教育ばかりが注目を浴びるなか、世界には他にも多くの言語や素敵な文化があり、習得にはその地域のことも知る必要があるということ、また昨今議論される文系学問の意義や、コロナ禍で全国的に閉鎖されていた大学キャンパスという場所が本来持っていた意味について問う番組が作れないかと考えたのだ。私がそれらの大切さを教わった、箕面キャンパス。そこに多様性と底知れぬ面白さが広がっていることは実感していたし、創立百周年で移転という、番組制作にとってこの上ない機会と条件が揃っていた。更に長年お世話になった学舎の姿を最後に映像で記録しておきたいという個人的な思いも加わり、結果、多くの人を巻き込んで制作させていただけることとなった。

私が今の仕事に就いたきっかけは大学にある。高校でアメリカに留学し、将来は国際的なIT起業家になるぞと欧米方面しか向いていなかった私に与えられたのがペルシア語だった(主専攻は言語の選べない「国際文化学科 言語・情報」)。しかし2年生で初めてイランを訪れたとき、人の熱気と美味しいご飯と排気ガスに満ち躍動するテヘランの街の面白さが、聞いていた話や私の想像を遥かに超えていて、圧倒された。3年生終了後にあらためて留学してイラン生活を満喫し、その翌年には隣国アフガニスタンで経済協力の仕事にも就いた。テロが頻発し、過酷な部分はあっても、国際社会が一堂に会して戦後復興に向かう首都カブールの熱量は凄まじかった。「怖そうな所によく行くね」と何度となく言われたそれらの国々に住み、メディアが報じない姿を体感すればするほど、こんなに楽しいことと優しい人に溢れているのに、知られていなさすぎるのが勿体ない、と思わずにはいられなかった。きっと世界には、まだ伝えられていないだけで、もっと面白い場所があり、素敵な人がある。それをまずは自分自身が感じて、そしてたくさんの人にも知ってもらいたいという思いから、私はかつての自分にアメリカ文化への憧れを抱かせてくれたテレビの仕事を選んだ。

ドキュメンタリーでは、実際の人々にカメラを向けさせていただき、その現場からストーリーを紡ぎ出す。そのため、作中での1カットに何時間、ときに何日と要することもあれば、突然思いも寄らない事態に発展することもある。そして事実を切り取り公開するという責任の重さを背負い、最後まで葛藤しながら映像を作り込んでいく。難しいことは多いけれど、時々、誰かの人生のまたとない大切な瞬間や素晴らしい光景に立ち会えたり、作品を喜んでもらえたりすると、心の底から感動する。だからまた新たな興味に出会うと全力で挑んでしまうのだろう。これからも、地球上の実際の営みや歓びを、敬意を持って私は伝えていきたい。



仕事風景

プロフィール



2002年入学。2006年度在アフガニスタン日本国大使館 草の根・人間の安全保障無償資金協力委員。2011年に大阪大学大学院言語文化研究科博士前期課程修了後、ドキュメンタリージャパン入社。国内外での幅広いテーマで100本以上のテレビ番組、映画、配信コンテンツに携わり、英語翻訳や字幕も手がける。主なプロデュース作品に、シリーズ番組『フランス人がときめいた日本の美術館』(2018-19年)、『未知へ挑む彼女たち ~Next Generations』(2020年)など。2019年にイラン人監督と組んだ『Farkhondeh』がTokyo Docs Colors of Asia 2020 ベストピッチ賞受賞。また2020年に香港との国際共同制作『私の母は能楽師』でTokyo Docs 優秀企画賞受賞。



コロナにも負けない「芸術の力」

新型コロナウイルス・パンデミックは未だに収束の兆しが見えません。その中で芸術も大きな影響を受けていますが、一方で、コロナ禍の人々の心を癒し、励ましてくれる「芸術の力」が見直されています。

私は20年前から公益財団法人日本美術協会で、絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門の優れた芸術家を顕彰する「高松宮殿下記念世界文化賞」(世界文化賞、PRAEMIUM IMPERIALE、<https://www.praemiumimperiale.org/ja/>)を担当してきました。海外では、日本発の「芸術のノーベル賞」とも評されています。

毎年、5月から1カ月間、海外受賞者のインタビュー取材に出かけるのが常でしたが、昨年はコロナ禍のために受賞者発表と授賞式は延期となり、海外取材もできませんでした。今年も海外には行けませんでした。9月14日に受賞者は発表します。しかし、10月下旬の授賞式は、またも中止することになりました。

この20年間にインタビューした受賞者は100人(25カ国)ほどになります。巨匠たちの豊かな個性と作品に接し、芸術家の魅力を実感できる得難い経験でした。昨年は、過去の受賞者50人にコロナ禍の感想を聞き、『芸術の力と新型コロナウイルス・パンデミック』と題する報告書にまとめました。

その中で、英国の画家ブリジット・ライリー(90歳)は「自己規律、忍耐、楽観主義、寛容さ、そして少しのユーモアを備えてコロナと共存する方法を学ばねばならない」、イタリアの画家ミケランジェロ・ピストレット(88歳)は「人間の創造性がかき立てられ、人工物と自然の真のバランスが確立されて『社会の再生』が可能になるのを期待する」、建築家の安藤忠雄(80歳)は「芸術の力は人々の心を一つにまとめることができるので、芸術家の果たすべき役割はコロナ前よりもむしろ大きくなる」と前向きです。



2014年受賞者のアルヴォ・ベルト(作曲家)とエストニア・タリンにて

「芸術の力」は、作品を通じて受け手の価値観や生き方を変えることもあります。コロナ禍で分断された人々の繋がりや絆を再生させる役割も期待されています。だからこそ世界文化賞は、今後もコロナにも負けない「芸術の力」を生み出してくれる創造者への支援を強めていくべきでしょう。

それにしても、私が「インタビュー行脚」を20年続けられたのは、新聞記者時代から「インタビュー」が習性となっていたからかもしれません。半世紀以上も昔の外語時代を思い返すと、新聞記者志望の動機は、「サンケイスカラシップ」でワシントンD.C.のジョージ・ワシントン大学に留学した際、大学近くのホワイトハウス周辺を歩き回りながら国際政治の“息吹”を肌で感じ、自分で記事を書きたいという単純な思いからでした。

因みに、同時期(1967-68年)に米国留学した「サンケイスカラ」には、外語同級生の松田武さん(京都外国語大学学長)と佐藤(旧姓橋詰)敬さんがいます。その同期生の一人(サンフランシスコ在住)から、米、英、独、仏に留学した同期生の初の同窓会を東京で開く話が持ち込まれました。ワクチン接種を終え、コロナが落ちつくのを念じながら、今年11月に「半世紀」を語り合える機会を楽しみにしています。

公益財団法人日本美術協会
「高松宮殿下記念世界文化賞」事務局長
元産経新聞ロンドン支局長

野津修敏 (大E17)



略歴

1944年島根県生まれ、1969年大阪外国語大学英語学科卒業、1969年産経新聞社入社、京都支局、経済部、夕刊フジ、ワシントン特派員、ニューヨーク支局長、ロンドン支局長、社長・会長秘書役、外信部編集委員兼論説委員、2001年から公益財団法人日本美術協会「高松宮殿下記念世界文化賞」事務局長

懐かしの恩師は今

日本語は暮らしのパートナー



小矢野哲夫
大阪大学名誉教授
(日本語)

大阪大学を定年退職後、2015年4月1日付で神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部に着任しました。5年間、日本語コースの外国人留学生に日本語を教えました。毎年1本の論文執筆を目標にし、達成しました。

「国会会議録を用いた日本語の研究」では会議の動画を視聴して、ほとんどの「でしようよ。」が下降調イントネーションであることを確認しました。「終助詞『よ』を文末に持つ文のモダリティー—国会会議録と衆議院インターネット審議中継の動画を資料として—ではイントネーションや口調や表情を参考にして発話・伝達に関するモダリティーを分析しました。「表現の文法性または適切性の判断について—『んだらう』を例として—」では、安倍晋三首相(当時)の「んだらう」という言い方に違和感を持ったのがきっかけで、「ん」のない「だらう」と比較して考察しました。「倉吉方言の文末詞」はずっと分析したいと思っていた母方言の分析・考察です。「副詞『そもそも』の意味—「基本的に」という意味は認められるか—」では安倍首相(当時)が国会で「これは基本的に」という意味もあるということもぜひ知っておいていただきたい」と答弁したことの可否を検証しました。その結果、根拠のない強弁だと結論に至りました。

退職後の2020年4月以降はコロナ禍でのステイホームで日本語の言語事実について観察することを続けています。日本語はボクの暮らしのパートナーです。

CANTARE, MANGIARE, AMORE



伊藤太吾
大阪大学名誉教授
(スペイン語) (院S2)

イタリア人は表題のように「歌って、食べて、恋をする」ことに生きがいを感じていると言われていますが、そのようなことは何もラテン民族に限ったことではなく、全人類に共通の事柄だと思います。大東亜戦争の最中に傷病兵の子として生まれた私は、外大に就職が決まるまで、赤貧を洗うがごとき生活を余儀なくされていました。その反動で、食事をするのが私の大いなる楽しみの一つとなり、スペインやルーマニアに留学した時も、南欧諸国を旅した時も、食文化には大いなる興味を感じ、美食家・大食漢になりました。

私の専門はロマンス語比較言語学ですが、習得した言語圏には素晴らしい音楽があります。定年退職後、忌まわしきコロナの蔓延前までは、タンゴ・ラテン・カンツォーネ・シャンソン・ファド・映画音楽などをピアノやバンドをバックにステージで歌ったり、アルゼンチンタンゴを踊ったりして、経済的理由で若かりし頃に味わえなかった青春を楽しんでいたのですが、今はそれも夢。ネットを活用して外国の文化を楽しんでいる今日この頃です。

私は論文を25本、著書は30冊を公にしてみました。ある出版社の依頼で15年の歳月をかけて『ルーマニア語辞典』を書き上げましたが、2000頁以上の大部になったためと、出版界の不況が原因で、いまだに上梓されていないことを極めて残念に思っています。

最後に、皆さんの健康と幸せを、切に願っています。
CARPE DIEM!



TMI 総合法律事務所 大阪オフィス

弁護士 大水 勇 (大C15)

〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町 8-1 梅田阪急ビルオフィスタワー 36 階

Tel: 06-6311-0577 / Fax: 06-6311-3978

化学薬品・食品添加物



磯田商事株式会社

代表取締役 磯田 良一 (大IN3 / 昭和30年卒)

〒336-0936 埼玉県さいたま市緑区太田窪3-15-14

TEL : 048-887-2943

ヒンディー語専攻の今 拓 徹

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 助教
外国語学部 ヒンディー語専攻代表

大阪大学外国語学部ヒンディー語専攻は、南アジアを代表するこの言語を本格的に学べる数少ない本邦教育機関の一つとして、今日も活動を続けています。現在の所属教員は、長崎広子教授(ヒンディー語文学)、西岡美樹准教授(ヒンディー語言語学)、2019年春にご退官された高橋明教授の後任として着任した拓徹助教(南アジアの政治・社会・歴史)の3名であり、加えてネイティブ教員としてヴェーダ・プラカーシュ・スィング先生、非常勤講師として松木園久子先生ほか、多数の先生方をお迎えし、ヒンディー語、およびインドを中心とする南アジアの言語・文化・社会について広く教育と研究に努めております。



マスク姿で学位記授与式に臨む卒業生たちと教員一同(2021年3月)

とはいえ、本専攻も当然ながら、昨春より猛威を振るうコロナ禍の影響を受けて参りました。本専攻では、高橋明先生のご尽力によりインドのデリー大学、ティラク・マハーラーシュトラ大学、ジャワーハルルール・ネルー大学の3校と部局間協定を結び、毎年数名ずつの学生をヒンディー語学習のために留学させていますが、2019年度にデリー大へ派遣された3名の学生が昨春ぎりぎりのタイミングでプログラムを修了し、大変な苦勞の末に見つけた航空便で帰国したのを最後に、これまで一年以上の期間にわたってインド留学ができない状況が続いています。

インド訪問を夢見て入学した本専攻の学生たちにとって、海外渡航できない状況はまさに受難以外の何物でもありませんが、学生たちはこの逆境に負けず、主にオンラインによる学習を続けてきました。昨年度は恒例の語劇祭も無観客・ビデオ収録による開催となりましたが、本専攻ではヴェーダ先生のご指導の下、当時の一年生を中心に『ボーラーラムの魂』を上演しました。また、昨年度末には外国語学部のキャンパス移転という一大事業も敢行され、学生たちは箕面船場の新キャンパスで心機一転すべく、コロナ後の学生生活を鋭意準備中です。今後とも、ヒンディー語専攻を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



キャンパス内でオンライン授業を受ける新1年生たち(2021年5月)

ビルマ語専攻の今 池田一人

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 准教授
外国語学部 ビルマ語専攻代表

2009年、本欄に近況報告してから13年が経ち、そのあいだビルマ語専攻では、いろいろなことがありました。

まず教員の顔ぶれが一新しました。2009年に藪司郎先生の退官と井上さゆり先生の着任をお伝えしましたが、2013年には南田みどり先生が退官されて私、池田が着任、2017年には加藤昌彦先生が慶應大学に移籍されて大塚行誠先生が着任しました。

2011年、ミャンマーでのテインセイン政権成立はおもわぬ「民主化」をもたらし、その恩恵はビルマ語専攻にもおよびました。それから10年のあいだ、専攻としては初めての交流協定を、ヤンゴン大学とマンダレー大学の2校との間で結ぶことができました(井上先生のご尽力)。ヤンゴン外国語大学を中心に、ミャンマーへの留学渡航も、ぐっと増え、2015年からはヤンゴン大学への短期研修を始めることができました。

2017年12月には、なんとミャンマー大統領のティンチョーさんが箕面のわれわれの学び舎を訪問してくれました!大統領のご尊父・故ウー・ウン先生はミャンマーではつとに知られた作家ですが、我が専攻の初代特任教授として、70年代後半の5年間在籍されていたのです。これを機に大野徹先生、藪先生、南田先生、原田正美先生もお集まりくださり、在学生とたのしい話の輪となりました。

2020年春先からはじまったコロナ禍は、我らの専攻にも試練となりました。その3月、留学生たち、インターン生たちが大事なく帰国できたのは在緬同窓生の皆様のおかげです。あらためて御礼申し上げます。

この年の暮れ、感染症が猛威をふるうさなか、「箕面キャンパスありがとう&さよなら会」に合わせ、ビルマ語専攻の同窓会創設が決まりました。さよなら会は中止となりましたが、われわれはしぶとくオンラインで開催し、日本全国どころか在緬と海外在住の同窓生の皆様、退官された先生方が、たくさん参加くださいました。そして2021年、ミャンマーはまたぞろクーデター、専攻にさらなる試練を与えています。ミャンマーの人々の忍耐強さを思い、われわれもこれに耐えて良い専攻を作っていく所存です。



国際フェスティバル開催にあたって

国際フェスティバル学生運営事務局 大谷真寛(人間科学部人間科学科4年)
事務局長

旧大阪外国語大学から連綿と続いてきた「夏まつり」をここ箕面船場の新キャンパスにていかに続けていくか、私たち新事務局に課せられた大きな命題であります。そして私たちは大学と協働して、今年の夏まつりを「国際フェスティバル」と銘打ち、大学・地域・周辺企業の産官学民の皆様へ参画いただき、新しい箕面船場の街びらきとして地域に生きる夏まつりを目指して行うことにいたしました。そのうえで今年度、国際フェスティバルは「世界旅行」をテーマに大阪大学外国語学部の中にある国際性だけでなく、箕面の街の中の国際性にも注目して、多様性豊かな大学祭を実現します。

Covid-19の世界的な流行の中、私たちは約2年間もの間、なにか大切なものが奪われているような日々を過ごしてまいりました。10月の開催日程でも、その現状はもしかすると変わっていないかもしれません。しかし、私たちは大阪大学の様々な専門家の先生方、大学事務と連携して、感染症対策を厳格に行い、感染症対策ガイドラインを遵守して、奪われたあの日々を少しでも取り戻したいのです。

私たち学生は4年間しか大学にいたることができません。しかし、咲耶会のみなさまの結束からわかるように、この4年間がいかに人生にとって重要かはかり知ることはできません。全てを取り戻すことができないにしろ、私たちはできることを確実に、学生文化、地域文化、大学文化が花開く国際フェスティバルを実現します。

国際フェスティバル実現にあたり、日々ご支援を賜り深く感謝申し上げます。また、引き続き、新しいキャンパスでの大学祭にご支援ご鞭撻賜りますようどうぞよろしくお願ひいたします。



それでは10月の晴れやかな国際フェスティバルにて皆様にお会いできますように。

◇「箕面国際フェスティバル(略称:国フェス)のご案内◇
阪大生と箕面市民の皆様との協働による開学記念イベントにぜひお越しください。

主 催:箕面国際フェスティバル運営委員会
主 管:国際フェスティバル学生運営事務局
テーマ:「世界旅行」
開催日程:10月2日(土)~3日(日)
開催会場:大阪大学箕面新キャンパス
企画内容:展示・発表、ステージ発表、模擬店、縁日、リレー講義、各種ワークショップ、体験・交流企画、民族音楽コレクション、スタンプラリー等
詳細は、国際フェスティバル学生運営事務局のホームページをご覧ください。

『節目の年、念願の対面開催へ』 ~語劇祭でプチ世界旅行~

2021年度語劇祭実行委員会委員長 安田優美香(イタリア語専攻3年)

こんにちは。2021年度語劇祭実行委員会委員長を務めさせていただいております、イタリア語専攻3年の安田優美香です。

今年は大阪外国語大学設立から100周年、大阪大学外国語学部になってからは14周年を迎える節目の年となります。キャンパス自体もこの4月に新しく粟生間谷地区から船場地区に移転いたしました。そのような大切な年に、外国語大学時代から続く伝統行事に委員長として関わられることをとても嬉しく思っております。

語劇祭には1年生では裏方として、2年生では役者として参加し、専攻言語の文化や表現を授業外でも沢山学ばせていただきました。また、簡単に外国の言語、文化に触れることができるということも語劇祭の醍醐味だと思っています。毎年10か国語以上の専攻語が参加している語劇祭では、2日間での開催ですが、会場に足を運ぶだけで本当に多くの国の雰囲気を感じることができます。まさに海外旅行をしているような感じです。新型コロナウイルスの影響で多くの方が長らく海外から遠ざかっておられるかと思っておりますので、ぜひ今年は箕面市でプチ世界旅行を楽しんでいただけたらと思います。

また昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の為、無観客での開催となってしまいました。昨年直接お届けできなかった分、今年こそは対面で、より良い形で観ていただけるよう、語劇祭実行委員会役員、そして各専攻語参加者全員がそれぞれ一丸となって取り組んでおります。ぜひ観に来てください。



→ URL: <https://kokusaifex.com>
咲耶会企画:展示、ありさよグッズ募金活動
オンライン配信交流スペース

◇「語劇祭」のご案内◇
開催日時:11月27日(土)~28日(日)
開催会場:COM3号館3Fステージ
・詳細は、外国語学部ホームページ、咲耶会ホームページ、SNS等でお知らせします。
・10月2日、3日の「箕面国際フェスティバル」で、昨年度の語劇祭の上映会を行う予定です。両日とも午前10時半に開始、会場は箕面新キャンパス502講義室です。タイムスケジュールは語劇祭実行委員会公式Twitter、Instagramアカウントで公開の予定です。

着任のメッセージ

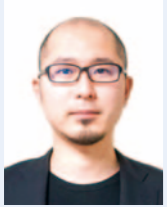


大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 朝鮮語 助教

岩井亮雄
いわいりょうた

朝鮮語学が専門です。学位論文では現代朝鮮語の母音の変化を考察しました。朝鮮語学、朝鮮文学、朝鮮語の授業を担当しております。

4月に着任して2か月が経ちましたが、ことばを観察して分析することの楽しみを学生と享受できるように悪戦苦闘しております。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 ウルドゥー語 助教

宮本隆史
みやもとたかし

ウルドゥー語と南アジア社会についての教育と歴史研究に取り組んでいます。インドとパーキスターンの人びとも、コロナ禍の中で厳しい生活を強いられています。同時代に日本に生きるわたしたちが、共に歩んでいく道を、学生さんたちといっしょに探していきたいと思っております。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 ハンガリー語 助教

江口清子
えぐちきよこ

日本語教師としてハンガリーへ派遣されたことがきっかけで、ハンガリー語の研究に携わるようになりました。これまでお導きくださった先生方へのご恩返しを込めて、次世代を担う学生のみなさんにバトンを繋いで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 ドイツ語 助教

橋 宏亮
たちばな ひろすけ

ゲテ時代のドイツ文学・文化について研究しておりますが、学部では法律を学んでおりました。伝統ある大阪大学で、学生たちとともに文化や社会について幅広く考える機会をいただき大変ありがたく、また嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 英語 講師

岡本太助
おかもとたすけ

私は1993年に学部に入學し、阪大での助教職を経て、昨年度まで九州大学にて教鞭を担っておりました。この度、恩師のご退職を機に母校へ戻り、アメリカ演劇と文学の授業を担当することとなりました。新キャンパスにて心機一転、教育と研究に進進してまいります。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 英語 講師

藤山一樹
ふじやまかずき

伝統ある本研究科に迎えていただき、大変嬉しく存じます。20世紀の縮図というべき戦間期(1919-1939)の国際関係を、当時の主要大国・イギリスの視点から研究しています。現代世界の成り立ちを学ぶ醍醐味を学生の皆さんに味わってもらえるよう、日々励んでまいります。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 フランス語 助教

篠原 学
しのはら まなぶ

チェコ生まれのフランス語作家、ミラン・クンデラの文学に魅せられ、研究を続けてきた私が、外国語教育・研究の長い伝統をもつ本学に着任したことにご縁を感じています。これから学生たちとともに探求を深めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科
日本語・日本文化専攻 講師

鴻野知暁
こうのともあき

日本語の奈良時代から平安時代における文法論を専門としており、コーパスを分析手法に取り入れることも行っています。美しい山々を望む新キャンパスで、元気のいい学生さんとふれあえることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科
日本語・日本文化専攻 講師

櫻井千穂
さくらい ちほ

複数言語環境で育つ子どものことばの発達について研究しつつ、学校現場の教員や支援者の方々と様々な教育実践を行っています。大阪大学の学生たちと共に、多様化する社会の一員としてできることを考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科
言語社会専攻 イタリア語 特任講師(常勤)

Pozzi Carlo Edoardo
ポッツィ カルロ エドアルド

ミラノの大学ではイタリア外交史を、京都の大学では日伊関係を専攻しました。現在は日伊間の外交関係史を中心に分析しています。私が日本から受けた恩恵のように、皆さんがイタリア語やイタリアとの関係を深めることで、豊かな学びを得られるよう尽力していきたいです。よろしくお願いいたします。

部活動の広場



阪大統合後に実施された最初最後の合同OB戦の際の写真

Gamblersとともに歩んだ20代

アメフト部 OB

村田誠貴(大SH49)

私が入部した1996年は、前年3部リーグで優勝。入替戦にも勝利し、2部リーグに昇格し、意気揚々とリーグ戦に臨んだが、残念ながら全敗、再び3部リーグに降格。そこからチームは暗黒期に突入。97年、98年も全敗。主将として臨んだ最終年(99年)も、リーグ規程人数に部員が足りない中、友人や退部したメンバーにも協力してもらいリーグ戦には参加できたものの、連敗が続いた。最終学年の最終戦、忘れもしない外大グラウンドでの大阪商業大学との試合。前半は劣勢が続いたものの、試合前のスカウティングが奏功し、後半についに逆転。その後、再び再逆転され、残りはずか20数秒のところ、再び逆転し、劇的な勝利をつかみ取ることができた。正直、在籍期間の戦績は誇れるものではないが、OB、同期、後輩に助けられ、やっとつかみ取った公式戦初勝利は人生の財産である。



感情をダンスにストリートダンスサークルROOTS

山添 優(ドイツ語専攻3年)

こんにちは。大阪大学ストリートダンスサークルROOTSです。今年24年目を迎えるROOTSは、現在、部員数は約100名で活動しています。主な活動場所は、例年通り、豊中キャンパス内のピロティ、小野原にある太陽の家であり、今年からは箕面新キャンパスに隣接する、生涯学習センターの利用も始まりました。

2020年はサークルにとって今までに類を見ない非常に活動の少ない一年でした。満足のいく新入生歓迎のためのイベントや学園祭を行うことができなかったことが大き



引退後はチームに恩返しするため学生コーチ、卒業後もコーチとして携わり、私が現役時代からヘッドコーチの丹生氏の後を受け継ぎ、ヘッドコーチに就任。また長きにわたり監督を務められた大島氏の転勤に伴い、監督という大役も拝命した。大島氏が帰阪された後も再びヘッドコーチとして、統合前の最後の年までチームに携わることができたのは、今振り返っても非常に光栄なことである。

現チームであるTridentsに移行後は、OB戦が無くなり、寂しい限りではあるが、またOB戦で諸先輩、後輩と会えることを楽しみにしたい。



2000年前半に実施されたOB戦の際の集合写真

な心残りです。しかし、一方で、新入生向けに、SNSでの活動に力を入れました。具体的には、ZOOMを使って説明会を開催したり、インスタグラムでダンス動画やメンバー紹介の投稿を発信したりしました。部員が集まることはできませんでしたが、一人ひとりがSNS上で積極的に参加できたのではないかと思います。

ImprovementというROOTSが運営するイベントを開催できたことが唯一の達成であったと思います。感染症対策に気を配りながら、タイミングを考えながら、の計画は難しいものでありましたが、ダンスってすばらしい!と参加した全員が再確認できたイベントだったと思います。

現在はサークル活動が再開しましたが、今後どのような状況になるかわからないという不安は消えません。し

かし、ダンスが好きという気持ちを見失わないように、自分たちが踊って表現したいことをはっきりと表現できるように、積極的に活動していきたいです。

◆受勲者のご披露

- 令和2年秋の叙勲 瑞宝中綬章 橋本 勝氏 (大阪外国語大学名誉教授)(大M13)
- 令和3年春の叙勲 瑞宝重光章 河田梯一氏 (関西大学元学長・名誉教授)(大C16)

◆令和2年度退職教員

- 松村耕光 言語文化研究科 教授(ウルドゥー語)
- 早稲田みか 言語文化研究科 教授(ハンガリー語)
- 貴志雅之 言語文化研究科 教授(英語)
- 岡田 新 言語文化研究科 教授(英語)
- 杉田米行 言語文化研究科 教授(英語)
- 高階早苗 言語文化研究科 教授(フランス語)
- 真嶋潤子 言語文化研究科 教授(日本語)
- 小西敏夫 言語文化研究科 准教授(朝鮮語)
- 黒谷茂宏 言語文化研究科 講師(ドイツ語)
- 小池 康 言語文化研究科 助教(日本語)
- CARDI LUCIANA 特任講師(常勤)(イタリア語)



上八学舎卒業ギター クラブOG・OB会 活動報告

諏訪忠泰(大S19)

1962年創部の大阪外大ギタークラブは、公式なOG・OB会が存在しておらず、卒業生が国内や海外に分散していて、比較的人数が揃う東京と大阪などで有志が食事会で集う状態が続いていましたが、昨年来、コロナ禍で会食はおろか、外出も儘ならず巣ごもりに近い自粛生活の状況下、学生時代ギターという共通の趣味のもとに狭い部室で活動した元部員が今一度青春の思い出と心の憩いを共有出来ないか、という趣旨で、当時の部員の連絡先の集約作業に着手しました。阪大との統合後も、「大阪大学箕面キャンパスギター

クラブ」として部活は続きましたが、今回元部員経由連絡先を辿れる範囲の上八学舎の卒業生(1964年卒～1979年卒)に、先ずは絞り込みました。昨秋、皆さんのご協力を得て、OG・OB30人余の部活の思い出や近況などを綴った「寄稿集」、さらに「卒業アルバム」「定演プログラム集」「上六上八街並み編」等を編集、配付し、メンバー間のEメールによる交信が動き出しました。

ギターの演奏活動を続けているメンバーは少なく、OG・OBによる演奏の再現は難しいかも知れませんが、コロナが収束し、いつか全員が年次を超えて集える日が来ることを願っています。

●1964～1979年上八学舎卒で、本会に未参加の方々は、ぜひ【諏訪:tadsuwa@gmail.comと岡本:ok808102w@gmail.com両名宛】に、ご連絡ください。尚、在学途中で退部を余儀なくされた方々も、一度でも定演に出演頂いていれば、入会歓迎です。

◆◆◆◆◆「部活動の広場」へのご寄稿をお待ちしています◆◆◆◆◆

現役、OB・OGを問わず、部活動ならではの交流の様子をお寄せください。執筆要領は右記のとおりです。(詳細は咲耶会事務局にお問い合わせください)

- 原稿字数：600字程度
題名をつけてください。(題名は原稿字数に含めず)
スナップ写真を1～2枚ご提供ください。
- 原稿の締切：6月末

EnaLloid

ENNA

Craftsmanship makes a "difference"

Ena Optical Mfg. Co., Ltd.
恵那眼鏡工業株式会社

〒508-0101 岐阜県中津川市苗木 4827-48
TEL : (0573)-67-2211 (代)
FAX : (0573)-67-2214
E-mail : info@ena-gf.jp

令和2年度 咲耶会総会のご報告

新型コロナウイルス感染拡大のため異例の開催となりました

母校創立100周年の前夜祭ともなるべき、令和2年度咲耶会総会が10月25日(日)、大阪大学中之島センターにて、オンライン併用、参加人数を制限しての開催となりました。会場出席者22名、オンラインでの出席者45名、204名の会員の皆様から委任状を提出していただきました。

総会では、令和元年度の決算報告と令和2年度の予算案を承認。平成30年度総会で選任された、大水勇会長、小林正受副会長、西尾齊幹事、深川泰博幹事、後藤峻幹事、少徳敬雄相談役の6名の役員の再任が承認されました。



2021年の大阪外国語大学創立100周年・箕面新キャンパス移転事業のための寄付金として、前年度総会では、咲耶会の積立金から、大阪大学未来基金「大阪大学箕面新キャンパス整備事業」に1,000万円を寄付することをご承認いただきました。令和2年度の予算案では、さらに広く寄付を募るため、「外大100周年記念寄付事業プロジェクト(ありさよ記念グッズ付寄付)」を立ち上げ、募金目標額を700万円、返礼用記念品制作費、発送費等の必要経費を差し引き、350万円を「大阪大学箕面新キャンパス整備事業」に寄付することをご承認いただきました。

報告事項としては、第5回「咲耶出版大賞」の選考結果を石野伸子選考委員長から発表。例年の総会での表彰式は割愛、受賞者のスピーチに代えて、大賞受賞者の澤田和彦氏、特別賞受賞者の関口英子氏・横山千里氏、真嶋潤子氏には、コメントをお願いし、咲耶会のホームページに掲載する旨お伝えしました。樽井副会長からは、イスタンブル支部の設立についての報告がありました。

コロナ禍の一日も早い収束により、100周年本番の2021年こそ、新キャンパスに多くの同窓生が集う「記念総会」が実現するよう、誰もが願った一日でした。(文責：井上泰子)

会費のクレジット決済をご活用ください

2018年4月から、咲耶会では会員の皆さまからの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しています。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆さまのご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと思います。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆さまには、ぜひご活用いただけますよう、よろしくお願いたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託している株式会社サラトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報は

令和3年度 咲耶会総会の開催について

2021年の咲耶会総会は、大阪外国語大学創立100周年・箕面新キャンパス開学記念の年にふさわしい、一大イベントとなる予定でした。楽しみにされていた方も多いと思います。新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからず、7月の咲耶会幹事会で慎重に検討した結果、昨年に準じた形での開催となります。講演会、懇親会は割愛、議案の審議に絞り、オンライン併用にて、下記のとおり開催いたします。会員の皆様には、ご了承くださいませよう、何とぞよろしくお願申し上げます。一日も早いコロナ禍の収束を願い、来年こそ、多くの会員の皆様一堂に会し、母校創立100周年と新キャンパス竣工を祝す、「特別記念総会」を実現させたいと思います。

日時：令和3年11月13日(土)午後1時30分～2時30分

会場：大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F
大阪外国語大学記念ホール

所在地：〒562-8678 箕面市船場東3-5-10
TEL：072-728-2327(咲耶会事務局直通)

アクセス：北大阪急行・大阪モノレール「千里中央駅」または、阪急電鉄「箕面駅」から阪急バス乗車、「新船場北詰」下車、徒歩約5分

議案：第一号議案 令和2年度決算および会計監査報告

第二号議案 令和3年度予算案

第三号議案 令和3年度本部役員選任

その他：第一号議案と第二号議案については、P.22 決算報告書と予算案をご参照ください。

参加ご希望の方は、同封のはがきにてお申込みください。オンラインによる参加を希望される方は、はがきにメールアドレスをご記入ください。咲耶会会則「第5章 会議」により、委任状による出席も認められています。

第27条 総会の議事は、出席正会員・準会員および特別会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。(委任状出席)

第28条 総会にやむを得ない事由により出席出来ない正会員は、委任状を提出して前条の議決に参加することが出来る。その場合、委任状を提出した正会員は、出席したものとみなす。

※なお、当日、午前11時～午後1時30分の間、幹事・支部長会議を開催する予定です。

三井住友ファイナンシャルサービスにのみ残るシステムで運用していますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、 VISA、Masterのみです。

※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> sakuyakai.net

なお、2019年度から、会報『咲耶』賛助金を、会報以外の多目的に活用させていただくため、単に「賛助金」といたしております。皆さまの温かいご理解のもとご支援よろしくお願申し上げます。

コンビニエンスストア・郵便局でのお支払い

毎年、当会より会員の皆さまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください。万が一会報が届いていない場合は、お手数でも同窓会事務局へご一報願います。次年度より会報を送付いたします。振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします。払込手数料は、当会が負担いたします。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下のとおりです。



■振込用紙は下記の3種類を同封しています。

- ①年会費 3,000 円のみ送付用 (郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ②年会費・賛助金一括送付用 (年会費 3,000 円、賛助金一口 3,000 円、計 6,000 円を一括してお送りいただけます。郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ③年会費 3,000 円+賛助金 2 口以上の一括送付用 (郵便局でご使用ください。金額欄は空欄です。年会費と賛助金の合計額をご記入ください。)

オンライン交流会、継続していました

若手活性化委員会委員 / 在学生支援委員会委員 後藤 峻 (夜 F42)
 コロナ禍の影響が長期化するなか、大学の授業も状況に合わせてオンラインとリアルを繰り返していたのがこの1年半でした。咲耶会または OGOB として、昨年の4月にスタートしましたオンライン相談会 (sakuya meets) は、この状況に合わせて断続的に開催してきました (主な開催時期：2020 年 4 月～8 月、2021 年 1 月～3 月、2021 年 5 月～6 月)。



活動当初は自宅待機で人に会いにくい状況のなか「オンラインでも、誰かに相談できる機会があること」そのものが喜ばれていました。

活動当初は自宅待機で人に会いにくい状況のなか「オンラインでも、誰かに相談できる機会があること」そのものが喜ばれていましたが、次第にその環境は改善される上で、次の変化が生まれました。「大学の卒業生がどのように活躍しているか、どのようなキャリアを歩まれているかを実際にお聞きする機会となってよかった」という点に関心をもって参加される学生が増え、学年も2～3年生の比率が増えていきました。(緊急事態宣言下で部活やアルバイトなども止まり社会で経験する機会が少なく

就活への不安にもつながり、キャリア研究や自己理解を早い時期からスタートされている方もいらっしゃるようです)。

これらは一時的な状況ということもありますが、キャリア相談の相手として同窓生に期待されることとしては嬉しいことであり、今後も引き続き担える関わり方かもしれないとの実感を果たす機会となりました。お忙しいなかご協力いただきました同窓生、機会づくりに向けてご支援をいただきました皆様方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

第6回 咲耶出版大賞が決定しました



選考委員長 石野伸子 (大 D22)
 卒業生や教員による 2020 年刊行の出版物を対象とする「第6回咲耶出版大賞」の受賞作品が決定した。大賞に選ばれたのは、春名幹男氏 (大 D17) の『ロッキード

疑獄 角柴ヲ葬リ巨悪ヲ逃ス』(KADOKAWA)。6 回目を迎えた今年も、学術書から翻訳本、絵本、実用書など多彩なジャンルの作品 14 点が寄せられたが、今回は 4 人の選考委員がそろって「充実した内容で読むのが楽しかった」と感想を述べた力作ぞろい。

その中から選ばれた『ロッキード疑獄』は、共同通信ワシントン特派員などをつとめた国際ジャーナリストの著者が、15 年の歳月をかけて事件の深層に迫った労作。すでに大宅壮一ノンフィクション賞 (2021) の候補作に選ばれるなど、高い評価を得ている。事件の背景にあるものは何だったのか、時代を経て初めて見えてくるものもある。公開された英文の公文書などを読み込み、日米外交の裏側に潜むものを追求する筆致は「抜群の読み応え」。「まさに現代史を読み解く快感がある」「多くの同窓生に薦めたい」と、強い支持を集めた。

特別賞は、霜鳥慶邦氏 (院後言語 5・大阪大学大学院言語文化研究科准教授) による『百年の記憶と未来への松明 (トーチ) 二十一世紀英語圏文学・文化と第一次世界大戦の記憶』(松柏社)。100 年前の戦争の記憶を、カナダ、オーストラリア、パキスタンなど、幅広い国に視点を広げ、各国の現代文学につなげることによって、この 100 年で取り残されてきた世界の課題を浮き彫りにする。テロ・移民・難民・先住民。戦跡や記念碑など筆者が各地で撮影した写真も豊富で、著述への理解を助けてくれる。

咲耶出版大賞は、咲耶会によって 2016 年に創設された。過去 1 年間 (1—12 月) に卒業生や教員などによって書かれた著作を対象に毎年春に募集を行い、応募作品の中から、卒業生や教員 4 人で構成する選考委員会で決定する。大賞賞金 5 万円、特別賞 1 万円。秋の総会で授賞式が行われる。応募要項など、詳しくは咲耶会ホームページ。



～ご寄附をいただいた皆様に『100 年史』を謹呈～

大阪大学外国語学部では、100 周年記念事業『大阪外国語大学・大阪大学外国語学部 100 年史 写真で振り返る 100 年』の刊行準備を進めておりましたが、先般、無事に刊行に至りました。すでに写真をご提供くださった方等にお送りしておりますが、卒業生の方々から入手希望のご連絡を多数頂戴しております。

つきましては、外国語学部と咲耶会を繋ぐキャンペーンとして、大阪大学未来基金に合計で 3 万円以上のご寄附をいただいた皆様に、感謝の気持ちを込めまして『100 年史』を謹呈させていただくこととなりました。詳しくは、大阪大学外国語学部 HP、または、咲耶会 HP をご覧ください。なお、お一人につき 1 冊のお渡しとなることをご了承ください。

2021 年版「同窓生名簿」まもなく刊行します

同窓生名簿編集委員会

母校創立 100 周年・箕面新キャンパス開学記念刊行の 2021 年版「同窓生名簿」がまもなく完成します。装丁も新しく、新学舎の写真もふんだんに掲載されています。

同窓生の皆様には、現況確認にご協力いただき誠にありがとうございました。また、多くの方々から、広告掲載、賛助金、名簿購入のご予約等、ご支援をいただきました。あらためて御礼申し上げます。

個人情報の保護にはより一層留意し、同窓生の親睦・交流、在学生の支援に活用してまいります。発刊後も、ご住所等に変更がありましたら、忘れずに咲耶会にご連絡をお願いいたします。

なお、購入予約をされていない方でも、咲耶会会員であればご購入いただけます。ご希望の方は事務局までご連絡ください。在学生会員の方には、就職活動等にご活用いただけるよう、無料で進呈いたします。会員証をお持ちの上、事務局までお越しください。

【名簿の内容】

- 収録者：学校創立から現在までの同窓生約 49,000 名
- 発行日：2021 年 10 月下旬
- 頒布価格：6,400 円
- 賛助価格：12,000 円

令和 2 年度 決算報告 (令和 2 年 7 月 1 日～令和 3 年 6 月 30 日)

	決 算	(単位: 円)
収 入	入会金収入	1,775,000
	年会費収入	5,160,000
	賛助金収入	2,343,400
	咲耶広告収入	456,000
	名簿及年史収入	55,600
	総会収入※	0
	大阪外大創立 100 周年記念事業寄附金収入	8,166,300
	雑収入	279,875
	合計	18,236,175
	支 出	援助金
事業費		479,074
運営費		4,075,943
咲耶作成費		2,472,537
咲耶通信費		1,716,457
大阪外大創立 100 周年記念事業寄附金		3,500,000
大阪外大創立 100 周年記念事業費		3,523,337
合計	16,067,348	
収支差額	2,168,827	

期首正味財産 (前期より繰越)	34,757,559
期末正味財産 (次期へ繰越)	36,926,386

※総会収入が 0 となっているのは、新型コロナウイルス感染症防止のため懇親会を中止したことによる。

令和 3 年度 予算案 (令和 3 年 7 月 1 日～令和 4 年 6 月 30 日)

	予算案	(単位: 円)
収 入	入会金収入	2,000,000
	年会費収入	5,100,000
	賛助金収入	2,400,000
	咲耶広告収入	376,000
	名簿及年史収入	1,500,000
	総会収入	0
	大阪外大創立 100 周年記念事業寄附金収入	1,000,000
	雑収入	102,000
	合計	12,478,000
	支 出	援助金
事業費		630,000
運営費		6,248,000
咲耶作成費		2,500,000
咲耶通信費		1,800,000
大阪外大創立 100 周年記念事業寄附金		500,000
大阪外大創立 100 周年記念事業費		500,000
合計	12,478,000	
収支差額	0	

期首正味財産 (前期より繰越)	36,926,386
期末正味財産 (次期へ繰越)	36,926,386

※新型コロナウイルス感染症の流行により、咲耶会の活動全体に不確実性を伴う。

創立100周年・箕面新キャンパス整備事業へのご寄付ありがとうございました

2021年の母校創立100周年を祝い、箕面新キャンパスに「大阪外国語大学記念ホール」を設置することを目標として、2018年から会員の皆様にご寄付をお願いしてまいりました。皆様の温かいご理解と母校愛により、外国学研究講義棟1階に記念ホールが完成いたしました。4月1日には、同ホールにて「箕面新キャンパス竣工記念式典」が挙行されました。

「大阪に国際人を育てる」という開学の理念を具現化する場として、大阪外国語大学の名を残すことができましたことは、望外の喜びです。今後は、国際シンポジウムや学会、講演会、市民フォーラムなど、「新たな知を共創する場」として大いに活用されることを期待しています。ご寄付いただいた皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、募金の現況をご報告いたします。

●大阪大学未来基金「箕面新キャンパス整備事業」の2021年6月末現在の募金額

寄付者延べ人数：936名 寄付総額：40,921,409円
団体による寄付：18団体 寄付総額：17,748,795円
個人・団体 寄付総額：58,670,204円

(咲耶会からの寄付金1,350万円を含む)

募金活動の期間は2022年3月までの予定。募金の目標額は大阪大学全体で総額35億円(中之島キャンパス再開発事業30億円、箕面新キャンパス整備事業2億円、その他記念事業費3億円)。

●外大100周年記念寄付事業プロジェクト(記念グッズ寄付)のご報告

2020年8月～2021年6月末までの寄付金額：8,166,300円(収入予算額：700万円) SNSによる受付期間を1月末から4月末に延長、さらに7月末日まで延長。寄付予算額350万円を、大阪大学未来基金「箕面新キャンパス整備事業」に寄付。10月2日(土)、3日(日)に開催の「箕面国際フェスティバル」で募金活動を行う予定。

- ・寄付の最終報告については、2022年発行の『咲耶』33号で行います。
- ・箕面市の「ふるさと納税」を通じてご寄付いただいた方も多数いらっしゃいます。
- ・「箕面新キャンパス整備事業」の目標であった「大阪外国語大学記念ホール」が完成しました。今後は、外国語学部の学生支援を目的とした大阪大学未来基金「咲耶教育研究事業」へのご支援をよろしくお願いいたします。



高康治氏(大IP10)が紺綬褒章を受章されました

元商社マンで、定年退職後は「世界の人形館」を中心に、長年社会貢献活動(寄付など)を

続けてこられた高康治氏が、この春、紺綬褒章を受章されました。誠におめでとうございます。在職中の海外駐在はもとより、ご退職後も世界各国を精力的に訪れて、沢山の著書を執筆されています。まさに、外語精神の権化とも言える方です。

昨年11月には、大阪大学未来基金「箕面新キャンパス整備事業」に1,500万円ものご寄付をいただきました。写真は、竹村景子学部長がご挨拶に伺った際に撮影したものです。

「中国語専攻卒業生の交流の場 ml-pengyi」

『鵬翼』誌編集担当 青野繁治(大C27 院C12)



大阪外大時代から、中国語専攻の同窓会「鵬翼会」に便乗して、教員として、メーリングリスト ml-pengyi を運営し、同窓生、卒業生の交流を行ってきました。阪大との統合後は、阪大のメールアドレスで、運用を行っていましたが、小生の定年退職に伴い、Google

groups にアカウントを移動し、再スタートしました。教員時代には、大学や専攻のイベントの告知が多かったのですが、ちょうどキャンパス移転やコロナ禍が重なったこともあり、独自に別のホームページを立ち上げ、写真や動画、音楽などを公開しています。「100年史」に提供した写真以外にも、同窓生の家に隠れていた「史料」を提供してもらい、巣ごもり生活に対応し、これからも充実させる予定です。1960年代末から、今日に至る中国語劇のパンフレット表紙や関連資料のページには、中国語劇団のYOUTUBEチャンネルへのリンクが貼ってあり、過去の上演の録画を視聴できるようになっています。3月31日には、粟生間谷キャンパスへのラストライブを試み、そのライブレコーダー動画をアップロードしました。

メーリングリストの話題は、移転のほかに、卒業生の出版した本の紹介や音楽などの趣味、それから中国がらみの話題。例えば去年、京都のかもがわ出版が出した『中国は社会主義か』や阿古智子東大教授の著書『香港あなたはどこへ向かうのか』に関連して、香港における民主活動への取り組み、また中国国内での人権弁護士弾圧の問題が話題になりました。



開設したHPのURLは、<https://ss456932.stars.ne.jp/oufsc/>です。メーリングリスト参加希望の方は、shig.aono@gmail.com まで、ご連絡ください。

ロシア語同窓会「アヴローラの会」総会開催

藤本和貴夫(大R12)

毎年6月第3土曜日が恒例となっている、ロシア語同窓会「アヴローラの会」総会を、6月19日(土)、ZOOMによるオンラインの形式で開きました。昨年は新型コロナ禍の拡大で直前に中止を決定、今年は大事をとって箕面新キャンパス「大阪外国語大学記念ホール」での開催とオンライン

の併用を目指しましたが、大阪の緊急事態宣言が総会予定日の翌6月20日まで延長されたため、石田修一先生の講演は来年に延期としました。

総会に向けては、例年通り会誌『アヴローラ』第29号をおよそ2,000人の会員に送付し、ホームページ(<https://www.avrora.jp/>)の会員通信欄も活用して広報しましたが、懇親会のないZOOM総会は、やはり「今後の課題」として残りました。

しかし、そのような中でも大好評を博したイベントがあります。急遽、新キャンパスをビデオで撮影した「箕面新キャンパスの探検と思い出の旧キャンパス」(北岡千夏さん撮影)の上映です。撮影者は2日かけて留学生と咲耶会事務局のほかは、ほぼ無人の新キャンパスを「探検」し、ビデオにさまざまな「つぶやき」を残しています。また旧キャンパス教室での最後のチャイムの音?も聞こえます。興味のある方は以下をご覧ください。

<https://youtu.be/J9Ndi6vzDQI>

元大外大学長だった金子二郎先生のご遺志を継いで 松本卓美(大C31)

大阪外大中国語学科昭和58年卒(大C31)の松本卓美と申します。昨年メーカーを定年退職し、現在NPO法人大阪府日本中国友好協会で事務局長を担当しています。この協会は1950年(71年前)に設立され、現在は民間の非営利活動団体として、日中間の友好関係を深める活動を行っています。具体的には、①ボランティア活動の場、②会員間親睦活動の場、③日中間文化交流の場といった3つの場を会員や社会に広く提供しています。



大阪府日中友好協会と言えば、思い起こされるのは金子二郎先生のことです。金子先生は戦前外交官としてご活躍される一方、戦後は大阪外大中国語学科教授、そして同大学学長として奉職されました。また、大阪府日中友好協会会長として、1回目は1963年から3期(6年間)、2回目は1973年から6期(12年間)、日中関係激動の時代に民間の立場から日中友好のためにリーダーシップを発揮されました。私は微力ではございますが、金子二郎先生のご遺志を継いで活動を実践しているところです。

来年(2022年)は、日中国交正常化50周年記念の年に当たります。この50年で中国も日本も様変わりしたことは、皆さんご存じの通りです。大学を卒業しても、中国と何らかの関係を持っていたいとお考えの方は、ぜひ大阪府日中友好協会の活動にご参加ご支援ください。大阪外大卒の会員は指折り数える程沢山いらっしゃいます。

東北支部

黒木一吉(II E10)

東北は「笑子幸齢化」を目指して!

2年目に入ったコロナ禍で東北支部も活動を自粛、基本的には身動きできない状況です。こうした中で開学100周年を迎え、箕面新キャンパスが完成。新学舎で国際人を目指して勉学に励む学生の姿を想像する時、大いに心弾むものがあります。

同窓会事務局も移転し、何かと大変な中、快適な環境下で今後の円滑な事務作業にご期待申し上げます。NHKBSで放送された「小さな世界の大引越」。支部会員にもお知らせし、懐かしご覧いただいたことでしょうか。今春には、我が大崎市内の高校からアラビア語に合格した女子生徒もおり、殊の外、共感の思いを強くしております。

今秋11月、記念ホールで予定される竣工・開学記念シンポジウムや記念学術講演会などが楽しみです。東北支部の総会・懇談会は従来、仙台市内で開催してきましたが、新時代には新思考でと、今後は東北6県を回ることも考え、震災10年後の復興の様子も発信したいと思えます。東北は「少子高齢化」が進んでおりますが、子供達の笑顔が弾け、高齢者が光輝き幸福になる「笑子幸齢化」を目指して進んで参ります。



昨年12月、粟生間谷キャンパスを訪れた際、電車から望んだ「太陽の塔」

東京支部

久保義昭(大S14)

コロナ禍での東京支部活動について

2020年度は新型コロナの影響で、主要行事(ビアパーティ、支部総会、新年会)は全て中止になり、月例会も4月・5月、8月・9月は中止になりました。

しかしながら、10月度月例会をトライアルとして、オンライン講演でテストしました。12月度月例会からは、対面講演とオンライン講演のハイブリッド型で開き、緊急事態宣言下でも何とか苦労しながら開催が続いています。2月度は、アフリカのルワンダからの講演で受講者は米国、静岡、明石市、沖縄と色々な地区から参加され、従来の関東地区在住者中心の月例会とは景色が変わってきました。今後もテヘランやパリ在住の講師も予定しており、ワールドワイドなものとなります。

対面講演については、学士会館の定員60名の部屋を30名限定で実施しています。

今年の7月のビアパーティは、若手会員が多く集まる楽しい催しですが、やはり酒食がメインであり、開催を断念せざるを得ませんでした。

支部だより

支部総会は、総会+講演会+懇親会、新年会は、新春放談会+懇親会の構成ですので、飲食を伴う懇親会については、その時のコロナの影響を考慮しながらの判断となります。いづれにせよ、支部総会と新年会については、月例会と同様に対面とオンラインの二本立てで実施します。

長野支部

山西敏博 (長野支部長)

大阪大学大学院 言語文化研究科
博士後期課程 言語社会専攻 満期単位取得

2018年度より山陰両県の支部の統括を拝命しておりました、山西敏博です。新学舎開学おめでとうございます。

2018年12月、初の「鳥取県・島根県 合同同窓会」にて260名中14名、翌年2月「鳥取県東部同窓会」にて8名のご参加を得ました。また、2019年は、鳥取県から【童謡・唱歌のふるさと長野県】に異動をしました。前年度まで山陰両支部の統括をしておりましたが、それぞれ地元の有志の方々に委ねました。長野県に異動後は「長野支部」を新設し、2019年8月に初の「長野県支部設立記念同窓会」を開催しました。140余名中13名のご参加を頂きました。

2020年度には、国難のコロナ禍においても、12月5日(土)に東信(信州東部)地域にて「長野県支部第2回同窓会」を開催しました。140余名中3名のご参加を頂きました。



2021年度は、国難2年目のコロナ禍において、現在は再度全くの活動休止状態です。ですが、下半期までにワクチン接種で鎮静化がなされれば【12月4日(土)18時～、第3回同窓会：長野市 ホテルメトロポリタン長野(長野駅・徒歩3分)】北信(信州北部)大会を開催したいと存じます。その際は皆様ご参集くださいませ。詳細などご連絡は、山西宛にご連絡くださいませ (ezm11541@nifty.ne.jp / 080-3237-0225)。コロナ禍に負けることなく、咲耶会を信濃國で盛り立てましょう! よろしくお祈りを申し上げます。

名古屋支部

白岩 修 (大D19)

咲耶会名古屋支部の今後の活動について

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、名古屋支部の活動にも大いに支障がありました。今年に入っても、緊急事態宣言などが出され、引き続き活動があまりできませんでした。ただ、5月頃からワクチン接種が始まり、この会報『咲耶』32号が皆様のお手元に届く頃にはコロナも収束して、名古屋支部の活動が再開していることを願っています。

当支部では恒例の月例会「三水会」(毎月第三水曜日正午から

約2時間の昼食懇談会)をアパホテル名古屋錦5F日本料理「伊勢」で開催していました。毎回10名前後の参加を得て、政治・経済問題、外交問題、趣味など諸々の話題で楽しい会となりましたが、昨年3月以降はコロナの影響で、休会を余儀なくされています。又、コロナの影響で日本料理「伊勢」が閉店に追い込まれ、新しい会場を会員の皆様と共に探しているところです。

昨年12月12日(土)には総会(忘年親睦会)を開催予定でしたが、コロナの影響で中止しました。ただ、当日会員の皆様にはメールをして、咲耶会の財政状況が非常に厳しく「年会費」、「賛助金」を支払って頂くようお願いをしました。また2021年創立100周年・眞面新学舎整備事業への募金のお願いもしました。

今年は12月11日(土)に総会(忘年親睦会)を予定しています。会場は、従来使用していた会場が使えなくなり、新会場を探しています。今のところ、ホテル ルプラ王山(池下)を考えています。特別講演会の講師には昨年予定して頂いていた土森道雄氏(大TV17)に演題「Sri Lanka 2000 有余年の仏教歴史国家」で講演をして頂く予定です。

名古屋支部では、咲耶会本部、並びに東京支部からいろいろ有意義な情報を頂いています。名古屋支部ではそれら情報を会員の皆様にメールでご連絡をしています。そのため、メーリングリストの充実は不可欠なので、愛知県在住の方はぜひ、私宛にメールアドレスを連絡して頂ければと思います。また現在三重支部はないので、三重県在住の方も私宛にメールアドレスを連絡して頂ければ、いろいろな情報をメールでお送りいたします。

連絡先：名古屋支部長 白岩 修
TEL & FAX：052-806-7873 携帯：090-4865-8172
E-mail：shiraiwa1123@yahoo.co.jp
以上よろしくお祈りいたします。

京都支部

荒木泰子 (大E10)

8月以降と限定しなくても、Covid-19の影響で2020年は全く活動できていません。例年6月に開く幹事会も開催できず、そこで検討する支部総会の話も当然ないまま…。

「大阪外語同窓会 京都支部」と名乗っていたのを、本部とのつながりを明確化しようと、「咲耶会(大阪外語同窓会)京都支部」と改称しようと決めた(2019年)のが目新しいくらいでしょうか。

過去数年努力してきた脱老人会化の動きとして、総会での講師、幹事の若返りは継続していきたいと願っています。その証拠に比較的若い幹事(濱屋伸子さん、長尾美千代さん)と写した写真を下に添えます。



岐阜支部

丹羽宏造 (大IN7)

岐阜支部 支部総会 残念ながら現時点では未定です。

支部総会の参加者は高齢者の方が中心になってますが、幅広く参加者を募るためには、若い方たちのワクチン接種もほぼ行き届いたことを確認したいと考えます。

神戸支部

大森久美子 (大DM36)

神戸支部は、コロナ禍での生活について、支部地域在住の大C44山岡(太田)あかねさんにお聞きしてみました。

「辛い仕事は減らなかった。もとより翻訳の仕事は地味だが在宅勤務になり、ヨガスタジオにも行かなくなって地味が増した。食事の負担感も増した。ミールキットを頼んでみた。子どもの反応は微妙だった。在宅時間が増えたこの機会に中国語の字幕翻訳講座を受講した。ウォーキングは続かなかったが、講座はどうか修了した。週末は花や海や憩う人々を愛で、時にメイデイ(台湾のバンド)のオンラインライブに歓喜し、バーチャルで台湾に旅行する。コロナでも子は成長した。あと1年で大学生だ。休校中わら半紙の教材が郵送されてきた。修学旅行は国内に変更され、文化祭や体育祭は保護者不参加になった。ついPTA役員を引き受けた。クラウドファンディングやウェビナーが身近になり、地元のレストランや映画館、マンション民主運動や香港映画の支援団体へ寄付した。閉塞感と受容と模索と小さな幸せ。コロナ2年目、外では紫陽花が咲き、鴨が鳴いている。」

謝々!有難うございます。皆さんはいかがですか?さて当支部では、できれば21年内に「外語ピープル ZOOM 交流会」を開催したく思っております。詳細決定次第、当支部FBページにて告知しますのでぜひフォロー願います!

URLはこちら(QRコードでもok)→

<https://www.facebook.com/sakuyakaikobe>



宮崎支部

近藤哲二 (II S10)

2020年11月7日開催の支部同窓会は、コロナ禍のため中止としました。皆さんからもさまざまな意見がありました。前年から活用していた咲耶会宮崎LINE(12名)で連絡を取り合い決めたことでしたので非常に残念でした。本年はテレビでも放映されましたが、外国語学部の新キャンパス移転(2021.3.18)がありました。宮崎支部としても同窓会を開催してお祝いしようと思っています。

6月19日、コロナ禍のもと、3名の幹事が集まり協議しました。この頃の県内の新感染者は、ゼロを含む1けた台が続いています。

日時は、10月9日(土)午後6時30分、会場は昨年と同じ店(レストラン フラウンダー)です。最終決断は、9月初旬ごろのコロナやワクチン接種状況を見ながらの判断になります。

最後に、東京オリンピック・パラリンピックがどのような形であれ無事開催されること、また、ワクチン接種が順調に進み、コロナと共存できる日常がくることを祈っています。

以下 支部活動の状況の連絡

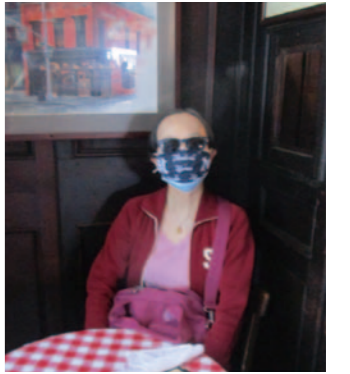
支部長、幹事は変わりありません。

- 1. 登録会員数：168名 2. 同窓会案内状送付数：60名
- 3. 最近の総会 平成31年11月9日 参加人数：15名

ニューヨーク支部

石田佳子 (大D29)

昨年3月中旬NYは必需とみなされない職種はレストランを含みすべて閉鎖、銀行は在宅勤務となりました。その後全国にコロナは拡がり、昨年は阪大北米同窓会の総会は協議の末対面開催は断念、11月にオンラインで開催しました。北米同窓会は全米にまたがって数拠点にあり、時差もあります。日本からの御参加もありましたので、金曜日東海岸の夜8時、シカゴは7時、西海岸は6時、日本は朝10時から開始、2時間程度の会でした。講演の後Zoomを分けて数人ずつでchatをする形式を取り、なかなか楽しく過ごせました。



現時点(6月末)NY州ではワクチン接種が進み、接種率が70%に到達、緊急事態宣言が解除され屋内での活動もほぼ制限なく元通りに再開しました。

今年の総会については現在オンライン、ハイブリッド、対面の何れかで、10月か11月に開催を目指して協議中です。州によって再開のレベルも違いますし、場所によっては5時間余り飛行機に乗っての参加は(私も含めて)積極的でない方もおられるでしょう。対面形式は難しいのではないのでしょうか。

総会とは別に、NY地区では忘年会等、機会を見つけて食事会をするのですが、こちらはずっとお休みです。ワクチン接種済の人も増えて来ているので、もうすぐ会えるようになると思います。

ハノイ支部

中本修一 (開発環境大48)

咲耶会ハノイ支部は、東京外大と合同で運営している「ハノイ外語会」をベースに年3~4回程度集まっております。2020年度はコロナ禍の影響もあり、2回(10・1月)のみの開催となりました。2021年度については、5・8・11・2月の年4回開催予定でしたが、4月末のコロナ第4波発生により、5月開催を止む無く延期することに。コロナ対応については優等生と言われているベトナムですが、第4波前に1日あたり数名から10名程度で推移していた感染者数が300名~500名程度まで増加し、感染地域のロックダウンや不要不急のサービス停止等で封じ込めに奔走しております。感染者数累計自体は、1万2千人程度(6/20現在)と近隣諸国と比べ低い水準ですが、

支部だより



第4波による感染者数が約7割を占めており、足元ワクチン接種の拡大が課題です(6/20時点、ワクチン接種率は人口の約1%程度)。かかる中、6月に日本政府からアストラゼネカ製ワクチン約100万回分が無償供与され、台湾に次ぐ東南アジア初のワクチン無償供与ということで、ワクチン到着時には当地メディアでも大々的に取り上げられました。

このような状況下ですので、従来のような大人数での懇親会の開催は難しいことから、今後は小人数での開催やオンラインツールの活用により、会員同士の親睦を深めていきたいと考えております。

イスタンブル支部

片田 聡 (大DM36)

昨年設立されたまだまだ新しい支部です。昨年の設立前には、OBが9名もいたことから、本部より支部化してはどうかとの提案を頂きました。確かに、トルコ語専攻があるにもかかわらず、その中心であるイスタンブルに支部がないのもどうかかなとも思い、皆さんに意見を伺いながら、支部として活動することに同意を頂き、活動を開始することとしました。しかしながら、設立後、コロナ状況で集まることもできず、今年3名のメンバーが当地を離れることになってしまいました。本当に残念ではありますが、新たなメンバーを迎えられればと楽しみにしております。イスタンブルだけでなく、周辺諸国に駐在されておられたり、当地に来られることがあれば、ぜひご連絡を頂ければと思っております。東洋と西洋が出会うこの素晴らしい街で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

支部長(片田 聡 大DM36 商船三井トルコ社勤務)
satoshi.katada@molgroup.com



先日(6月22日)開催したOB会

ヤンゴン支部

馬場宏和 (大B47)

昨年のコロナウイルス感染拡大に続き、総選挙での与党NLDの圧勝、本年2月の政変など、情勢が目まぐるしく動いた1年でした。昨年以降多くの支部メンバーが一時帰国を余

儀なくされているため、活動らしい活動ができずにいる状態ですが、主なトピックとして昨年12月6日に初めてとなるビルマ語科同窓会をオンラインで開催しました。当地からは残留メンバー(当時)の松島勇治さん、岩瀬景太さん、私の3名が、コロナ禍のミャンマー、2020年総選挙、ミャンマー支部の交流行事の状況について報告しました。懐かしい顔ぶれが一堂に揃い、旧交を温め合う大変良い機会になりましたが、やはり酒肴を交えて直に会える日が一層待ち遠しくなる思いでした。今は一刻も早いコロナの収束と民主的な政治情勢の回復と安定を切に願っております。

個人的には、帰国や旅行が自由にできない中で、ビルマの人々の日常の暮らしや文化に多く触れる機会を得ました。特に、年の瀬の休暇中にパゴアの僧院にて暫し出家する機会を得たことは思い出深いものとなりました。いろいろと驚きや発見もあり、ここでは割愛しますがご興味のある方はご一報ください。



マニラ支部

岡本真穂 (大PH55)

フィリピンは、バレンタイン・旧正月休暇以降、コロナ新規感染者数が急増し、マニラ首都圏、および首都圏近郊の病院は満室状態、いわゆる、医療崩壊になりました。3月末に、2回目の厳格な外出制限が宣言され、6月末現在も、外出制限、マスクとフェイスシールドの着用義務が続いています。

このような状況のため、パンデミック以降、マニラ支部は食事会を控えています。4月からズーム飲み会を開始しました。事前に何を飲もう? 食べよう? など考えるのは意外と楽しく、食べているものから話が盛り上がる時もあります。日本にいる元メンバーとの再会、家族やペットの飛び入り参加、帰る時間を気にしないでいいなど、なかなか好評です。3月に赴任した新メンバーの笹川さん(日本語専攻)は、入国後すぐに隔離ホテルからの参加でした。6月に赴任された塩野さん(フィリピン語専攻)の歓迎会もオンラインで行う予定です。また、阪大待兼会とのオンライン懇親会も3か月に一回のペースで行っています。ワクチン接種をした会員もいますが、2021年は、オンライン飲み会を継続予定です。

最後に、フィリピンでは三密ではなく、Iwas(イワス: 避ける)、Hugas(フガス: 洗う)、Mask(マスク)の「三ス」です。



マカティ市 Sunday Market 2021年6月

北京支部

實亜里紗 (阪大C5)

你好! 咲耶会北京支部から中国の近況を皆さんにお届けいたします。



中国では外出時のマスク着用などの防疫対策は常態化しているものの、経済活動は既にアフターコロナ期を迎えており、国内出張・旅行、大人数の会合や会食なども解禁されて久しいです。その背景には1人でも感染者が発生したエリアは即時封鎖措置を実施、日常生活でもビルや商業施設の出入りにはその都度、検温・健康コードの提示が必要など中国式の厳格な管理が存在しますが、その恩恵も大きく、昨秋から咲耶会北京支部懇親会を再開することができました。東京外国語大学とも合同でゴルフコンペや懇親会を開催しており、北京という軸を中心に、縦へ横へご縁を広げていく機会となっています。

中国国内ワクチン接種回数は6月末段階で10億回を突破し、早期にワクチン供給を開始した北京ではすでに接種率80%まで到達したと報道されています。外国人である私もこの地で2回の接種を完了しました。マスク越しではありますが、道を歩く人々の表情からはコロナ拡大を制御している自信や安心感を感じ取ります。特に今年は共産党建党100周年という国家イベントもあり、国内が活気に満ちている印象です。

近鉄奈良駅徒歩1分
HOTEL花小路
上田トクエ(大E15)

〒630-8226 奈良市小西町23番地
TEL: 0742-26-2646 FAX: 0742-26-2647
H.P. <http://hanakomichi.co.jp>
E-mail yoyaku@hanakomichi.co.jp

(季節を愉しむレストラン 横屋)

阪急阪神第一ホテルグループ **千里阪急ホテル** ご予約お問い合わせ **06-6872-2808** (セールス) 千里中央駅 徒歩約5分

自由な日中往来が実現するにはまだ時間がかかりそうです。私自身も一年以上日本に戻っておらず少々望郷の念が募るところではありますが、東京・北京で開催予定のオリンピック・パラリンピック、そして2022年の日中国交正常化50周年という様々な節目をこの異国の地で過ごす意味を、コロナ前には無かったであろう視点から考え、日中の未来を見つめていきたいと思えます。

支部総会・イベントのご案内

- 令和3年 長野支部総会**
 日時/12月4日(土)18時~
 場所/長野市 ホテルメトロポリタン長野(長野駅・徒歩3分)
 連絡先/山西敏博(長野支部長)
 (ezm11541@nifty.ne.jp / 080-3237-0225)
- 令和3年 東京支部総会**
 日時/2021年10月24日(日)12:00~15:00
 会場/学士会館203号室 対面とオンラインの二本立てで実施。
 講演/「大阪外大創立100周年(仮)」
 講師:竹村景子(大阪大学外国語学部長)
 参加費用:5,000円(懇親会なしの場合2,000円)
 *新型コロナウイルスの感染状況次第で
 ・講師が大阪からオンライン出演
 ・飲食を伴う懇親会は中止となる可能性があります。
- 令和3年名古屋支部総会(忘年親睦会)のご案内**
 日時/12月11日(土)12:00~14:00
 会場/ホテル ルプラ王山2F 葵
 会費/5,000円(和洋弁当と飲み物)
 講演会/講師:土森道雄氏(大TV17/タイ語学科1969年卒業)
 演題/「Sri Lanka 2000有余年の仏教歴史国家」
 経歴/外大卒業後、日本陶器入社。タイ、カナダ、スリランカ、アメリカ等に駐在。
 申込先:名古屋支部長 白岩 修
 TEL & FAX: 052-806-7873 携帯: 090-4865-8172
 E-mail: shiraiwa1123@yahoo.co.jp
 申込締切: 11月20日

古典芸能案内人 **IE17**
 文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。
天野光(本名・天野豊子)
 AMANO HIKARU
 文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内人で検索!!!
 アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-geinou-guide/> 古典芸能のスズメ: <https://artcoordinator.com/>
 e-mail: kotengeinou@nike.eonet.ne.jp フェイスブック: [amanohikaru.2](https://www.facebook.com/amanohikaru.2)

北摂地域でのお集まりに
 ご宴会・ご宿泊・レストランご予約承ります。

SAFETY PRIDE 阪急阪神ホテルズは
 ~安心・安全を誇りに思うこと~ 安心・安全に全力で向き合います

ロビー・客室・レストラン・宴会場・エレベーター・トイレなど
 館内のお客様が手に触れる箇所に抗菌・抗ウイルス加工を施しました

千里中央駅 徒歩約5分

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

年会費のお支払い、賛助金のご寄付ありがとうございました。 ※ は年会費と賛助金の両方を納入いただいた方です。ご協力ありがとうございました。

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大E12 長谷川 清, 大E12 松村孝義, 大E12 武藤植雄, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大E37 浅野(白井)元子, 大E37 小川(真崎)文香, 大E38 金野(岩井)千春, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大DM31 星野 信, 大DM32 荒瀬規之, 大DM32 松野(於勢)世央子, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大R24 竹下(森)雅樹, 大R24 白鳥(山根)由美子, 大R25 高木 亨, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大H53 前田綾子, 大H59 濱口(楯)麻耶, 大U46 多喜大祐, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 阪大C3 山村高子, 阪大C4 氏家道登, 阪大C5 賀 亜里紗, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 短D4 野上(森本)則子, 短D6 疋田昭, 短F2 乾 武, etc.

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表

本部	会長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	大水 勇(大C15)	事務局 〒562-8678 箕面市船場東3-5-10 大阪大学 箕面キャンパス 外国語研究講義棟1F	TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支部	支部長名		
北海道	笹山喜市(大IP25)		〒003-0029 札幌市白石区平和通9丁目北1番29号 sasayama@sapporo.email.ne.jp
東北	黒木一吉(II E10)	高橋啓介(大PH52)	〒982-0821 仙台市太白区松が丘15-7 cb250Keisuke@yahoo.co.jp
東京	久保義昭(大S14)	樽井一仁(大R23)	〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603 taru2742@yahoo.co.jp
長野	山西敏博(院後言社8)		〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202 ezm11541@nifty.ne.jp
名古屋	白岩 修(大D19)		〒465-0066 名古屋市名東区梅森坂西1-801-107 shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐阜		丹羽宏造(大IN7)	〒508-0101 岐阜県中津川市苗木4827-48 k.niwa@ena-gf.jp
石川	楠根重和(院D7)	吉田孝子(大IT37)	〒921-8171 金沢市富樫1-10-4-601 taka5yomako@gmail.com
福井	山下裕己(大S23)		〒915-1232 越前市二階堂町18-8 h.yamashita@fukuishimbun.co.jp
京都	宮川徳三(大S16)	西尾 齊(大E11)	〒606-8404 京都市左京区浄土寺下南田町70 dkals108@kyoto.zaq.ne.jp
奈良	神谷忠雄(大E4)	佐柄保夫(大C26)	〒631-0804 奈良市神功1-4-125 sagara07@hera.eonet.ne.jp
大阪	金村義夫(II E10)		〒540-0021 大阪市中央区大手通3-3-3 日宝東本町ビル ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神戸	大森久美子(大DM36)		〒662-0835 西宮市平木町3-21 ルモンド西宮229号 kkmom93@yahoo.co.jp
播但	釜谷研造(大E2)		〒675-0038 加古川市加古川町木村140-8 FAX (079)424-7777
丹波	岸田 功(大IN15)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原47 rskq59484@zeus.eonet.ne.jp
香川	大西 晏(R25)	森本勝幸(大S15)	〒760-0080 高松市木太町九区843-1 morimoto.kren@docomo.ne.jp
徳島		小田敏治(大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34 tom_oda@emn.ne.jp
愛媛	垣生千春(大IP40)		〒799-2460 愛媛県松山市菟木甲119-8 hazar-baharjulai-25@ezweb.ne.jp
高知		周藤健史(大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7 tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡山	草野 徹(大DM23)		〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98 akirakusano0319@i.softbank.jp
広島		山岡 哲(大IT20)	〒733-0814 広島市西区己斐西町19-37 sakuya.hiro555@gmail.com
鳥取	小原越史(中北欧夜E30)		〒683-0802 鳥取県米子市東福原5-8-26-202 a2coh@yahoo.co.jp
島根	勝部由紀夫(大D33)		〒693-0101 島根県出雲市上島町1-363 yukiokatsube@icloud.com
福岡	吾郷健二(大S10)	中尾史子(大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501 nfumi3191@gmail.com
熊本	かじえいせい(大S21)		〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村宮山1547-1 dreamincountry@gmail.com
宮崎	近藤哲二(II S10)		〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄1720-2 tekondo64@gmail.com
沖縄	金城徹男(II D5)	鈴木正士(大S36)	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学法文学部国際言語文化学科 msuzuki@ll.u-ryukyuu.ac.jp
北京	中嶋清治(大C21)	賈亜里紗(版大C5)	北京市朝陽区(以下略) arisa.minoru@eneos.com.cn
上海	渡邊 洋(大C29)	伏村和展(大C59)	sh_oufs@yahoo.co.jp
香港	太田明雄(大IT26)	小林敏子(東アジア大C57)	Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowloon, Hong Kong 4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一(大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OneIFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	坂口広之(大IN36)	高岡容子(大IN35)	Bandung, Indonesia (以下略) Jakarta, Indonesia (以下略) darwin0708@gmail.com ytakaoka@cbn.net.id
マニラ	テンマタイ都喜代(大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720 tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	川村芳範(大TV24)	阪本法子(開発・環境大47)	kawamura-yoshinori@earth-chem.co.jp Ms. Noriko Sakamoto #2007 Cape House Serviced Apartments, 43 Soi Langsuan, Ploenchit, Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand osakagaidaiykk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	中本修一(開発・環境大48)		shuichi.nakamoto@mizuho-cb.com
ヤンゴン外語会	松島勇治(大B27)		centro318@gmail.com
ニューヨーク		石田佳子(大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA hime.yoshikoishida@gmail.com
ロサンゼルス	望月一郎(大E25)	西川ノーマン裕子(大TV36)	951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA 4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA ichimochizuki@yahoo.co.jp hirokonamann@gmail.com
サンパウロ	草薙綾子(中南米大PB48)		Alameda Santos, 705-cj. 17-Cerq. Cesar Sao Paulo-SP-Brasil-01419-902 wec@wecbrazil.com
ロンドン			
デュッセルドルフ	片岡 惇(大S4)	小玉亜衣(大D52)	Grenzstr. 33 40670 Meerbusch Germany c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France matsumototakao@netntt.fr
パリ	松本隆男(大F4)		
ミラノ			
モスクワ	岩本 茂(大R18)		c/o JAPAN TOOL SERVICE 119049 Ul.Korovij Val dom7, kv168 Moscow iwamoto@jtools.biz
シドニー外語会		河原一夫(大DM40)	45 Moree Street Gordon, 2072 NSW Australian kawahara345@oki.com
イスタンブル	片田 聡(大DM36)		satoshi.katada@molgroup.com



株式会社 サラト

TEL 0120-953-070
受付時間 月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00

同窓会幹事代行承ります。

※(株)サラトは同窓会の名簿管理会社です。



令和3年度 咲耶会役員名簿

名誉会長	竹村景子	院 A22	幹事	白岩 修	大 D19	幹事	並川嘉文	院前日本 7
会長	大水 勇	大 C15	〃	三次召尚	II C5	〃	菊池信孝	開発大 57
副会長	井上泰子	大 E15	〃	西村朋也	大 TV22	〃	福山泰海	大 H59
〃	小林正受	大 E16	〃	石野伸子	大 D22	〃	後藤 峻	南欧夜 F42
〃	荒木和夫	大 DM18	〃	笹原敬生	大 IN27	大学役員	岸田文隆	院 K15
〃	樽井一仁	大 R23	〃	河井洋子	大 R27	〃	村上忠良	大 TV36
幹事	西尾 齊	大 E11	〃	大森久美子	大 DM36	会計監査	岡本晶子	大 S29
〃	藤本和貴夫	大 R12	〃	上原順一	院 R22	〃	野垣和美	大 P33
〃	前田征信	大 K16	〃	松本健二	院 S24	相談役	少徳敬雄	大 E11
〃	深川泰博	大 E16	〃	福田義昭	院後言語 1			

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子 / 委員 上原順一・松本健二・並川嘉文 / 事務局 天野豊子・西田貞子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。


- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
 - 会員のデータ管理
 - 総会・同窓会活動各種案内
 - 会報『咲耶』の送付
 - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
 - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
 - その他会則に基づく活動
- 自己情報の提供は任意です。
- 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
- 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
- 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集後記

『咲耶』32号をお届けします。
創立100周年のこの年、キャンパスの引っ越しに伴い、咲耶会事務局も粟生間谷から新船場に移りました。新学舎では1階エレベータホール横に居を構え、先生方や学生さんとの距離が随分近くなったと感じます。アクセスが便利になったお蔭で、ふらりと訪ねてくださる卒業生も増えました。会報『咲耶』を通じ、次の100年へと新しい歴史を紡ぎ出した母校の「今」を伝えるには格好の環境です。皆様からいただいた浄財により設置された「大阪外国語大学記念ホール」は廊下を挟んで向かい側。ホールに隣接する坪庭には、上本町から箕面間谷キャンパスを経て、

はらかな旅路の末に辿り着いた「烈士の碑」が、母校の歴史を俯瞰するかのごとく安置されています。旧箕面キャンパスの象徴であった「世界時計」も坪庭の道路に面した一角に移設され、悠久の時を刻んでいます。

「創立100周年・新キャンパス開学特別記念号」の名のもと、「これからの百年も大阪に国際人を育てる」をテーマに特集を組みました。多彩な皆様からのご寄稿により、紙面に深みを添えていただきました。新しい環境のもと、新しい時代にふさわしい内容の充実にも努めたいと思います。引きつづき皆様の温かいご理解、ご支援をお願い申し上げます。(編集委員会)




会報 No.32 (2021)


発行 令和3年9月

発行所 咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)
〒562-8678 箕面市船場東3-5-10
大阪大学 箕面キャンパス 外国語研究講義棟1F

☎ 072(728)2327 ✉ sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
🏠 sakuyakai.net 🌐 www.facebook.com/SAKUYAKAI
郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会



咲耶会 メールアドレスおよび
連絡先 QR コード



咲耶会 facebook
QR コード